京城日報

四日夕刊

本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金五十錢 （郵送前金）一ヶ月金六十錢 三ヶ月金壹圓九拾錢 六ヶ月金三圓七拾錢 ▲郵券代用二割增
廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲特報欄內一行金壹圓 ▲場所指定一行金貳圓 ▲三號活字は二行 ▲六號活字は五號活字同樣の事
發行兼編輯人 奧田直 印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話番號 編輯用 營業用 販賣部

□列國使臣の參賀

賀表を受けさせられ優渥なる勅語を賜ふ

天皇皇后兩陛下には三日午後三時千種間に出御列國大公使外交官一同の賀表を受けさせ給へり右に就き英國大使グリーン氏は外交官一同を代表し左の祝辭を御前に於て奏上し我が 天皇陛下には之に對し優渥なる勅語を賜はりたり（東京特電）

外交官の賀辭

「立太子ノ禮ヲ擧ケラレタルニ際シ本使ハ外交官一同ニ代リ玆ニ恭シク祝詞ヲ 陛下ニ捧呈シ併セテ 陛下 皇后陛下及ヒ皇族各殿下ノ萬壽ヲ祈リ且 陛下ノ治世ハ帝國ノ安寧國民ノ幸福ノ爲メ並ニ日本國ト其ノ友邦トノ間ニ於ケル交誼ノ親密ナランカ爲メ隆盛ニシテ無窮ナラン事ヲ希フ

勅語

本日立太子ノ禮ヲ擧行セシニ際シ外交官一同ヨリ懇篤ナル祝詞ヲ受ケ欣喜ニ勝ヘス朕ノ深ク感謝スル所ナリ玆ニ友邦ノ君主及大統領ノ健康ト其ノ國民ノ幸福ヲ祈リ併テ交際ノ益々親密ナラン事ヲ望ム

△露國最高勳章御贈進

露國皇帝陛下には三日我が皇太子殿下の立太子禮御擧行を祝せられ皇太子殿下に對し露國最高勳章セント、アンドレーを御贈進相成りたり依りて露國大使クルペンスキー氏は同日午後三時宮中に參內千種間に於て 天皇陛下に謁見親しく同勳章を捧呈し 天皇陛下より更に皇太子殿下に授けられたり猶英佛伊三國公使より我が皇太子殿下に勳章を又西班牙國皇室より我が皇后陛下に勳章を孰れも御贈進あらせらるゝ由承はる（東京特電）

△各皇族御對顏

東宮殿下には四日高輪御殿に於て皇族各殿下並に三皇子殿下と御對顏立太子の御祝詞を受けさせられたり（東京電報）

□聖上文展行幸

天皇陛下には四日午前九時宮城御出門上野公園に開催中の文部省美術展覽會に行幸御歸途日本美術協會に御立寄り還御遊ばされたり（東京電報）

○黃興の死と黎總統

黎總統は黃興の死を悼み弔詞を發し國葬費二萬元を給せり（北京電報）

○漢口佛貨排斥開始

漢口商人は天津佛租界事件聲援の爲佛貨排斥を開始せり（上海電報）

○徐の拒絕

段孫間の調停

徐世昌氏は二日長文の書面を送り來り段孫間の調停を欲せざれば北京に行くを欲せずと明白に黎總統の要求を拒絕せり（北京特電）

○希勤王軍

雅典來電＝百五十名より成る希臘勤王軍は六百の兵力を有する叛軍の壓迫を受けてカテリナを撤退しラリッサ方面に退却中なり國王は勤王軍に對しあらゆる犧牲を拂ふも革命軍の前進を阻止すべしと命令せり（紐育電報）

○ヴェルダン戰佛軍の戰利

十月廿四日以降ヴェルダン戰線に於て佛軍の捕へたる負傷せざる俘虜總數六千十一名にして中將校百三十八名あり又同期間に鹵獲せる軍需品は今日迄に判明せるもののみにても大砲十五門中重砲五門あり塹壕用臼砲五十一門機關砲百四十四門無線電信裝置二機及無數の大砲彈藥其他なり（倫敦電報）

○獨軍のヴォー要塞撤退

佰林來電＝獨軍はヴォー要塞を撤退したりと（紐育電報）

○伊軍對墺新攻擊開始

羅馬來電＝伊太利陸軍發表の公報に曰く伊太利軍は墺軍に對し新に攻擊を開始し數個地點に前進し捕虜約五百餘名を獲たり（紐育電報）

○露司令官の羅都到著

ブカレスト來電＝ガリシヤ方面露軍總司令官サカロフ將軍はブカレストに到著せり同將軍はドブルヂア方面の露羅塞聯合軍の指揮官たるべし（倫敦電報）

○獨逸衣服調製の制限

獨逸政府は衣服券を發行し一般人の衣服調製に對し制限を加へ織物の使用節約を命せり（紐育電報）

○獨社會民主黨員の動搖

獨逸社會民主黨議員八十名は聯合政府與黨を脫退する旨宣言せり之が爲首相の地位大に危殆となれり（紐育電報）

○野田副總裁辭職聽許

依願被免東洋拓殖株式會社副總裁

勳三等 野田卯太郎

野田東拓副總裁は辭表提出中の處四日左の如く聽許せられたり

日夜其筋に電報ありたり

○佐藤少將通過

佐藤陸軍少將は三日夜高麗丸にて釜山通過內地に向へり（釜山特電）

○原代議士渡鮮

衆議院議員原修次郎氏は三日夜櫻丸にて釜山に上陸せり（釜山特電）

○大分農林學校生徒

大分農林學校生徒二十七名は奧野佐々木二敎諭引率の下に四日朝釜山著大邱を經て七日京城に入る筈なり（釜山特電）

○李堈公御參列

李堈公殿下には三日午前八時三十分御參內立太子の禮に御參列ありて同九時三十分御退出相成りたる旨其筋に電報ありたり

▲拜賀參內 三日立太子の禮に參例せられたる李堈公殿下は更に拜賀の爲め同日午後二時四十分御參內同三時二十五分御退出ありたる由

▲御陪食

立太子禮御參列並に祝賀言上の爲御入京中の李堈公殿下に對し五日御陪食仰付られたり（東京電報）

○政務總監饗宴

山縣政務總監は六日午後六時より小松綠氏を朝鮮ホテルに招待送別宴を催す陪席者は各部長官局長並に官房內高等官等二十餘名なり

○外事課長任命

秋山參事官に對し四日附を以て左の辭令ありたるが博士は同日各部局に就き新任の挨拶ありたり

朝鮮總督府參事官 法學博士 秋山雅之介

總督府外事課長を命ず

朝鮮總督府中樞院書記官長事務取扱を命ず

●臨時研修會

總督府にては七日午後三時三十分より第二會議室に臨時研修會を開く講演者は同府囑託今西龍氏なり

●兩東拓理事送別會

東拓理事林井上兩氏今回歸東に付熊本縣人會幹事の發起にて來る七日午後六時より京城ホテルに送別會を催す由にて有志者は何人も參加するを得ることとなるが會費は二圓當日持參のこととなりと

●小松氏東上期

前中樞院書記官長小松綠氏は七日午前八時三十分南大門驛發汽車にて退京東上の事となれり

●小原長官著期

農商工部長官小原新三氏は五日午後九時南大門驛著汽車にて著任の旨總督府に電報あり入京後は石塚總裁の移轉を見るまで前大藏次官官舍に居住の筈なりと

●上林長官入京期

忠淸南道長官上林敬次郎氏は小原農商工部長官と共に五日夜南大門驛著汽車にて入京三四日間滯在の筈なり

●松寺檢事正歸任

京城地方法院檢事正松寺竹雄氏は去月十四日より江原道方面へ出張司法事務視察中の處二日歸任したりと

●三浦警視出張

警務總監部衛生課勤務三浦警視は慶尚南北兩道及び全羅南道の沿岸各地に於ける防疫事務視察の爲め往復約四週間の豫定を以て四日午前八時三十分南大門驛發列車にて出張せり

北朝鮮へ 第三信

二日元山にて 西海生

□元山有力者歷訪

▲鐵道局各位、二日の元山は無風好晴上乘の活動日和に候ひき、乃ち小生は各方面に向つて可なり訪問力を發揮致し候、先づ元山官界の兩元頭たる村地府尹神野署長を歷訪、府尹よりは府政の一端を署長よりは警察行政に關する二三を承はり候、府尹は明治四十年副理事官として來任以來、今日迄勤續滿九年、元山を第二の故鄕視せる人、表面溫和なれど仲々問題に對しては所信の斷行力を有する樣に候

▲小男ながら頭腦明晰の働らき手矢野稅關長は、一日咸南國境の巡視より歸りしとて、少々疲を覗らしゐたり、始終ニコ〱して氣持ちよき人也、元山每日樓上に安田社長を訪ひ、聞いて埠頭に聲立せし商業會議所に到れば、會頭以下役員の承認未だ總督府より來らず、書記長外數名の書記、今夏故あつて辭去後、廣い建物の內部はガランとして十年一日の如き老舍計役村主君を見出すに困る位、然し會頭及川氏副會頭小田村氏外役員は近く公に決定するらしく候

▲吉田朝郵專務の本城たる吉田商會主任松江君は、青年實業家として機敏の商才を有する人に候、尤も背後に財力と勞力ある爲め働らくには都合よきやうにも思はる、色々の意見を抱持し、而してよく語る、朝郵出張所長の石川八十郎君はヌーボー式、不得要領の性に要領を得ろらし、丸吉廻漕部の安全上氏高田支配人とも少時會談、元山の元老原瀨水電の專務にもお目に懸り、其の有名な豪傑笑ひを耳に致し候、土木局出張所にて築港の事を聞く、若森局長、及川久治郎氏、久我鮮銀支店長は不在にて會見致さず、遺憾の次第に御座候

▲此頃の元山には特筆するに足る活問題も無之樣に候唯京城共益社が其の鐵道特定運賃を利用し、近來安邊永興方面に入り込みて盛んに大豆を買ひ纏め、それを釜山に向けドシ〱發送しつゝあるは鳥渡目立ち居り候、爲めに元山大豆の元山より積出さるゝ物激減し埠頭淋しく地方疲弊すとて、元山穀物商は其の對抗策を講究中の由、昨年まで共益社の手は多く元山方面に及ばざりしも、本年は鐵道延長等の爲め其の活躍甚しと云ふ何れは元山にても大豆商組合の如きを組織し、內地移出五千噸所の責任噸數を定め、鐵道局所定特定割引運賃の恩典に浴せんとするものゝやうにも思はれ候、但し其の實現には少なからぬ困難有之可候

▲總督府にて百五十萬圓の巨費を投じ、五年の繼續事業たる元山築港は施設著々進捗しつゝあり、此の工事の爲め、元山の所謂大棧橋より運輸部濱に到る海岸はトロの往復、諸材料の山積等にて何となく活氣を呈し居り候

▲目下の所海岸十二萬坪の埋立、金剛丸外一隻の浚渫船にて內港の浚渫、岩壁工事著手の準備中と承はり候、何分元山港は干滿潮の差僅々三尺に足らざる爲め、施工容易必らず大正八年度に到れば理想的の築港出現、北鮮貿易上寄與する所大なるものあるべしと存せられ候

▲元山の爲に氣の毒なるは永興灣防備隊の引揚に候、海軍省は本年四月を當分の間永興に防備隊を置かざる事と改め、山口司令官以下全員多くの建物を空洞とし、佐世保鎭守府に歸還してより、元山市况の一部は慥に寂寞を感じ居り候殊にそれが花柳界に酷いとの事に候、靑襟衣の群れを見るを得ざるに至りし元山花街は爾來すつかり頭が上らぬ落城近しと話す人もありそれ程でなくとも打擊たる事は事實に候

●取引所發起人

京城に株式會社米棉取引所を設置せんとし發起人たる東京、大阪、名古屋に於ける同志の人の署名捺印を求め此程夫々の手續を經て願書を提出したるが取引所設置問題に付ては既報の如く京城の實業家とも內々提携して事の實行を期せんとするものゝ如く前記願書の提出と同時に發起人の一人たる兼松熈氏より當地の某實業家の許へ照會の書翰を寄せ株主の勸誘を依賴し來れる由にて目下同氏は四五の有力なる實業家と協議の上一同の意見を纏め內地の發起人と會見して萬事を決定せんとしつゝあれば遲くとも本月中頃迄には內地朝鮮兩方面の發起人の提携成立し步調を揃へて成立を期することゝなるべし尙發起人の署名者に就ては正確なる報道に接せざるも名古屋側の發起人多數を占め居るものゝ如く其氏名の知り得たる分を揭ぐれば東京は南波禮吉、淺川淸造、關島延一、高井治兵衛、山中清兵衛、鈴木圭三の諸氏大阪は山內卯之助、中村秀五郞、小川平助、竹原莊治郞、柳廣吉、加島安治郞、德田平次郞氏等にして既報の島德藏氏は之に加はり居らず名古屋は佐分三之丞、安藤竹次郞、村瀨周輔、後藤新十郞、荒川伊八、加藤鐵丸、大深重三、高橋克親（現住釜山）夏目直一、兼松熈氏等なりと

●新龍山實業親和會

新龍山實業親和會にては從來三年計畫を以て組合員の規約貯金を行ひ居りしが客月十七日にて期限滿了せしを以て三日午後二時より新龍山幼稚園に於て總會を開催し事業の報告其他に關し打合を爲す所ありたるが同會は現在六十五名の會員を有し一人宛八十圓の千日貯金をなし既に六千餘圓の貯金を見るに至れり同組合は今回の成績に鑑み今後三年間一人當り百二十圓の規約貯金を爲し前記の六千圓と共に信用組合を設け會員は何れも出資者となることゝなり役員改選の結果石原磯次郞氏再選したり

平壤

▲平壤貿易額 十月中平壤稅關通關貿易額は輸移出三萬四千百三十六圓輸移入三十一萬八千百十三圓計三十五萬二千二百二十四圓金塊三十二萬四千百圓にして昨年當月の輸移出七萬五千五百九十二圓輸移入三〇萬五千三百九十四圓計三十八萬九百八十六圓に比し四萬八千七百五十二圓の減少を示せり而して輸移入品中の主要なるものは木綿布綿糸金巾シイーチング爆發物等にして輸移出品の重要なるものは米穀鑛石金塊等なり▲人力車々體檢査 平壤警察署に於ては去月二十五日人力車々體檢査を執行したるが成績頗る良好にして總車體數一三一輛中屬具提灯等の破損せしもの二件ありたるのみなり▲獸疫發生か 平壤府陸路里五五番地高泰應所有牡馬一頭十一月一日鼻疽に罹りたる由にて目下同人方に隔離中して獸醫檢診中なるが果して同病なるや否やは未定なり▲雇員採用試驗 平安南道廳に於ては十一月六日頃雇員採用試驗を執行する由志願者は至急願書履歷書を提出すべしと

黃州

▲黃海道廳員の來黃 黃海道廳永島技師は高良技手及び岡部技手の兩氏を隨へ物產品評會審査の爲十月三十一日黃州に來れり▲重要物產品評會 黃州鳳山瑞興三郡物產品評會は十一月一日午前十一時より黃州城內品評會場に於て擧行貴賓廣熙務主任郡書記三郡出品者の代表者として郡守に對し品評會開會の申請を爲し郡守の開會の辭あり其より永島黃海道技師の審査報告黃州警察署長岩崎信平氏及び安藤守備步兵中佐西田源吉氏等の祝詞あり正午閉會此日會場內は約四千の出品人及び參觀者等集合し非常の盛況を極めたり▲物產品評會雜觀 黃州居住民は豫て三郡聯合品評會開會に際し黃州の繁榮を計らんと計畫し居りしが愈々開會の第一日は黃州驛前に高さ三丈餘の大綠門附近一帶小國旗球燈を以て飾り同約一里を距て黃崗里の入口及び城內各所に綠門を作り國旗萬國旗球燈を吊りて裝飾を施せり會場附近各所に妓生の踊輕業活動寫眞の樂隊等賑しく殊に普通學校に於ては公立學校生徒の運動會等もありて加へて市日なりしかば黃州城內の街路は肩摩轂擊一時は通行も出來ざる程の盛況を極めたり其れが爲城內市場通りに於て黃州郡龜洛面水山里金重撒當五十四年は金五十七圓の懷中物を掏摸に取られたるが外に金五圓をも竊取せられたるものありたり

仁川

▲商議評議員會 仁川商業會議所にては立太子式奉祝會の爲め三日午前十時評議員會を召集し席上大豆特定運賃問題に就いて評議したる後奉祝宴を開きたり▲各學校休業 仁川公立各學校にては四日仁川神社例祭なるを以て午前九時講堂に於て神社參拜に關する訓話をなし同十時職員生徒一同大神宮參拜同日は休校せり▲蒲鉾製造業者へ注意 仁川警察署にては今回蒲鉾蒟蒻製造業者を調査し從業者にして原料臼搗の際口笛を吹き居る者あらば唾液が飲食物上に散布する虞あるを以て絕對に中止せしむるか或はレスピラートルを使用せしむる樣示達の上取締の實行を計る旨管內各派出所に命令したり

人事消息

▲三浦惠一氏（衛生課警視） 三日午後大邱へ
▲高野省三氏（三井支店長） 三日午前歸京
▲レンジャミン氏（加奈陀太平洋汽船會社員） 三日朝安東へ
▲四元嘉平次氏（海洋商業會議所會頭） 四日朝入京不知火へ
▲ブレードフード氏（米人） 四日朝入京朝鮮ホテルへ
▲田中遜氏（黃海道第一部長） 四日朝退京
▲藤岡久平氏（日本バルブ會社常務） 同上
▲古賀長松氏（同） 同上
▲勝業三郎氏（石炭商） 同上
▲南野貫氏（三菱社員） 四日午後退京

Ⓜ 內外石鹼化粧品直輸入卸商 月本政次郎商店 京城明治町二丁目

謝近火御見舞 京城明治町 電話一六四〇番 鐵工並鍛冶 安達仙太郎

謝近火御見舞 京城明治町二丁目 田中始一郎

謝近火御見舞 京城明治町二丁目 古賀喜代吉

謝近火御見舞 京城明治町二丁目 明治湯

謝近火御見舞 京城明治町二丁目 石橋覺次郎

謝近火御見舞 明治町二丁目 電話一〇四二 精肉氷御小賣 石田本店

謝近火御見舞 京城明治町 河內山辰藏

謝近火御見舞 京城明治町二丁目 電話二八一八番 朝日牧場販賣部

謝近火御見舞 京城明治町二丁目 電話一九一四番 大西洗濯店

謝近火御見舞 京城明治町二丁目 電話一六四番 羽多野松太郎

謝近火御見舞 京城明治町二丁目 電話一七三番 佐藤病院

謝近火御見舞 京城明治町二丁目 表具師 電話二九五五番 木村修竹堂

謝近火御見舞 圍碁仙友會 紀本龍太郎 京城明治町二丁目

謝近火御見舞 昨夜近火の際は早速御見舞被付御見舞を頂き奉謝候混雜中貴名伺漏も難計不取敢以紙上御禮申上候 京城明治町二丁目 電話二〇三五 明治旅館

謝近火御見舞 京城明治町二丁目 朝鮮興信所 原田傳治

謝近火御見舞 京城明治町二丁目 朝鮮實業株式會社 京城支店 岡內淸 岡田芳一

●西洋史の續稿を脱稿してから死にたい

列車中の有賀博士=病博士を看護する病夫人=顧問年限が未だ一年殘つてる外人の離間中傷に乘ぜらるゝな=此次の戰爭は文明に區劃をつける=世界に新文明生れん

支那政府顧問法文博士有賀長雄氏は七月以來病氣療養の爲め歸朝中なりし處此の程小康を得たるを以て夫人ちよ子を伴ひ從者一名看護婦一名を隨へ朝鮮鐵道を經て北京歸任の途京城一泊四日午後九時四十分南大門發列車にて北行す、水原驛より博士を一等客車中に訪へば病後の博士は何にくれと夫人の世話を受けながらデスクに横臥してありしがやがて其の黑髮一筋をだに交へざる

□雪白の頭髮を撫しながら起き上り

語つて曰く『病氣は最早大分快くなつたので旅行するには何の不自由も感じないが氣候の移り變りが著しく身體に障るやうである、看護婦を隨へて來たのは自分の躰が惡いからと云ふよりも永い間家内が僂麻窒斯で惱んで居るので常に看護婦を伴はなければ不自由であるから』と夫人を顧る、夫人は血色勝れざるも年よりも若く高等師範出身當年の才色を偲ばしむるものあり

□夫人の曰く

『北京へ參るのは今度で三度目ですが朝鮮を通つて參るのは始めてで釜山へ上陸して見ましたが豫想以外に日本化して居るのは驚きました鐵道沿線の山間の沃野も

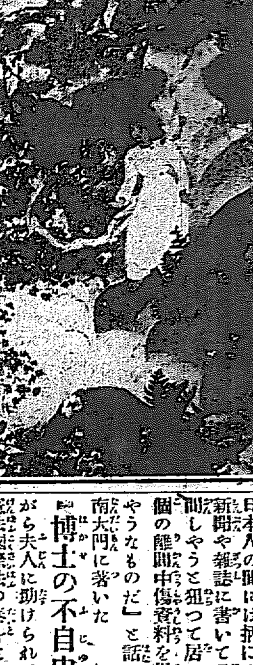
▽内地の田舍 のやうに思はれました丁度今日は立太子式の日とて田圃の小さな村落の草の家までに日の丸の御旗のひらめいて居るのを眺めて涙の出る程嬉しく思ひました、ほんとうに神代の昔しからつぎ〳〵に代々の天子樣の朝鮮にかけさせられた御苦勞の甲斐が今日に現はれて斯うして片田舍まで

▽大御惠の露 に浴して居るかと思つて私共まで心から嬉しく存じます』更に博士の近狀を語つて『主人も近來は左程まで勉强も致しませんが一時は書物の著作など致しまする時は三晩も四晩も眠らずに御飯もろく〳〵取らずに書き續けると云ふ有樣でしたから傍から見て居てもあんなに

▽頭腦を虐待 したら今にひどく惡くなる時が來るだらうと思つて〳〵として居りました、その爲めですか今ではもう夜よく眠れなくて困ります』と語るに博士は微笑しながら『私が一番烈しく勉强したのは

□最近三十年外交史を書いた頃

で丁度大隈侯も其の頭西力東漸史を著述されて居たのでその御手傳ひを爲ながら書いて居たので隨分運動不足睡眠不足の限りを盡したものだ、私の腦溢血は幸ひに輕症の方であつたが而しまだ左の耳と左の足とは全く利かないので閉口して居るしかし北京へ行くと仕事が閑だから誘發する事が能きる西洋史も書きかけてあるし此の大動亂の終局を見てから西洋歷史を書き終つて死にたいと思ふ今回の世界大動亂は實に近代文明の一段落であつて二十世紀及び其の以後の新文明は此の戰爭に由つて區劃された一時期を出發點として生れるであらうと思ふ』と語りながら其の不自由の足を勞りながら



田澤湖傳說(第十回文展出品)平福百穗氏筆

□支那の時局

『私の北京政府と契約した顧問年限は未だ丁度一箇年ばかり殘つて居るので今度は年限中を北京で生活する考へで居る』とそれから話を段々支那の時事の方へ向けて行くと博士は要心らしく眼を輝かして『支那の事に就て種々とお話しゝても好いしまたお話しも爲たいけれど何うも支那の現狀はあまり褒めた話しでもなし從來の日本の對支政策と雖も亦同樣好くはなかつたので私の立場としては誠に話が爲惡くてほんとうに立入つた話は出來ない譯である

□副總統馮國璋 とは天津で二三回會談した事もあるが極めて溫厚の人で今度なども南方派からも北方派からも選擧されて居る馮副總統が南京に居て北上せぬと云ふ事も南方の押へとし又

▽南北融和 といふ上から見ても至極當を得た事であると思ふ、支那政界に於ける南北兩派の暗鬪と云ふ事は實際である或は表面に現はれて居る事實以上に軋轢して居るかも知れぬ而しながら現政府にして焦らず逸やらず徐々として其政策を施したならば庶幾くは現下の

▽難局を切 拔けて天空海濶の處を得られる事と思はれる、段總理の如きも必ずしも日本内地の多くの人が傳ふる如くしかく權謀術數の人では無い先づ目下の支那政界を見て此の人を總理の

▽最適任者 であると見なければならぬ、今度は北京へ行つても憲法起草の事には餘り關係しない考へである、起草委員會にも樣々の分子が含まれて居るから可成に面倒の事であらうと思はれる、憲法制定發布せられず國會開設せられざるに既に幾多の

▽政黨政派 が生れて互に相爭つて居るのを見ても支那政界の事は思ひ半ばに過ぎるではないか、今の處は總統も副總統も何等主權行使の自由なく全く參議院政治が行はれて居るわけであるが將來之れが發達して完全なる

▽議院政治 の行はるゝや否やは疑問である支那の國情は其の政黨を組織するを不可能とする國柄であるから其の憲法政治が如何なる程度迄に實現さるゝやは問題である』と謎のやうな時事談があつて『今度東京を出發する際

□寺内首相とも面見して對支政策など

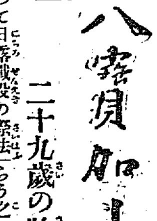
もいろ〳〵と聞いた要するに前内閣の對支策は朝令暮改といふ有樣であつたから成績の思はしくない割合に支那の感情を害して居る新内閣は前内閣の取つた對支政策とは

■全然異つた方針 を取る事に決定して居る。要するに今までの日本人の間には柄にもない惡たれを新聞や雜誌に書いて日支兩國間を離間しやうと狙つて居る某々外人に好個の離間中傷資料を提供して居つたやうなものだ』と話される間汽車は南大門に著いた

□博士の不自由 足を曳きながら夫人に助けられて客室を降る。大家として憲法國際法の泰斗として又文明史の著者として多くの識者の聲望を荷びて猶病中の老軀を提げて南船北馬するのはまた一箇の感傷的な舞臺面ではないか。

八寶加卜秘史(三)

二十九歳の壯擧=漂浪の時代



馬賊の頭目と爲つて日露戰役の際法庫附近に其の根據地を置き頻りに日本軍の爲めに活動した八寶加卜は單純なる馬賊稼業の請負仕事ではなかつたのである日露開戰の當初八寶加卜は喀喇沁王の召に由り索倫山中より出で僅かの部下を從へ

▽王に謁した 王は蒙古各王中最も傑出し北館内には武備學堂及び男女學堂を建設して蒙古人を教育し中外に聲名を馳せた程の人にて王亦頗る世界の大勢に通じ八寶加卜に向ひ日露兩國が滿洲にて相戰ふに至る迄の歷史を語り初て曰ふやう今回の戰に於て萬一日本が露國に打敗られ日本の勢力の滿洲及び朝鮮より全然驅逐せらるゝに至らば單に日本國の

▽敗滅のみに 非ず我蒙古及支那全國も亦滅亡するに至るであらう之れ吾等が此の戰爭を袖手傍觀するを得ざる處である余は日本よりも依賴を受けたるものでないされど能ふ限りの任務を盡し陰に日本の便宜を圖らうとする所以は漢北に在つてよく露國官民の兇暴を防ぎ我同胞を守護し『蒙古人の若き神』と呼ばるゝと聞いてゐる此の任務の意義は重大であるのに頭領に未だ其人を得ず爾

▽國家の爲め に大努めずやと八寶加卜大いに悅び躍し或は劍を撫ひ或は日本軍の爲めに馬に水飼ひ現在の生きある間は盡さんと誓ひ其の武備堂より屈強なる青年數名を選拔し總勢五百餘名を引率し三三五隊に分ち遂に西に指て喀喇沁を發したるは光緒三十年三月我明治三十七年四月下旬の事であつた八寶加卜年二十九歳彼は

▽絶大の希望 を抱きて日本軍の陰身に添ひて其の便宜を圖つたが正直一圖の日本軍は彼を用ひて大いに特別任務に當らしむるが如き事をせず常に彼は日本軍より敬遠されて殊外され充分連絡ある行動を取るを得なかつたのは今日猶彼の遺憾とする處であるされど彼は日本軍の已れを解すると否とに拘はらず或は

▽鐵道を破壞 し或は森林を燒き露軍の敵援隊を狙擊する等陰に日本軍の爲に露軍の行動に幾多の障碍を與へた日本軍が南滿洲より露軍を一掃し軍が鐵嶺以北に進むるや八寶加卜は昌圖以西に出沒し根本的に露國の輸送機關を破壞せんと企てたが露軍の警戒嚴重にして容易に手を下す事出來ず斯くて五六箇月を過ぎ内日露兩國の

▽和議成る と聞き我任務終れりと彼は光緒三十二年二月喀喇沁王の許に歸還し王の武備學堂に在りて八寶加卜は自から大小數百戰の實驗より得たる兵法に依つて王の蒙古兵訓練に任じ喀喇沁の衆望を一身に集めた四月清廷の理藩大臣肅親王蒙古巡閱の途次喀喇沁王を訪ひ旬日逗留せられ八寶加卜亦

▽屢々親王に 謁した親王は八寶加卜の淸廉にして智勇あるを見て他日大いに用ふべきを知り幾多の謎を殘して別れた此れ八寶加卜が今回の蒙古宗社黨の亂を起した根帶を爲すものである斯くて喀喇沁王の武學堂に居る事數月太平の日續くに從ひ彼の心は再び漢人の暴虐父母兄弟の横死を思ひ復讐の念の燃發するを抑へ難かつた彼は王の

▽百方止むる を辭し衆人の追慕の袂を拂つて再び漢北車臣汗領に入つた此の漂浪の時代は彼に取りて最も忘れ得難き得意の時代にして彼は茲にて優勢なる部下と美しき戀とを得た

附記 八寶加卜の名は普通巴布札布と書かれたれど八寶加卜と書くを正しとし本記事の標題は八寶加卜自身が署して本社記者に手渡したる處のものなり

●海へ島へ

休日を狩暮す可く

仁川近海なる江華、靈光、大阜、龍游、永宗の諸島には雉、雁、鴨等が山野沼澤に來游して好獵家をして垂涎せしめつゝあるが本年は各島に虎列拉が發生した爲め其筋では警戒を嚴にして絶對に上陸せしめぬ事にして居るから、例年

▲殷々たる銃聲 に賑ふ島々も頗る寂寥を極てゐる。併し警戒も二三日中に解除される豫定であるから近日中には脾肉の嘆に堪へなかつた狩獵家連が鬨を作つて乘り込むであらう前記諸島の中で雉子の狩獵地としては龍游永宗等で時節になると鮮人部落に群をなして降りて來ては鶏と一緒に至極呑氣相に餌を獵て居るし江華靈輿大阜等の各島には雁鴨

讀者文藝(一等には五十錢の書籍券を呈す)

▽川柳『青』

○歌劇座の歸りは青い酒に醉ひ(一等) 京城西小門 神崎白樂天
▲青臺用も無いのに坐つてみ 京城 一夢
▲拔て見る青筋將棋興味あり 水原 馬場 松翁
▲雨連き親屋が青い息をつき 龍山 岡本小草子
▲敵證が眞面目となつて青くなり 京城 東 森
▲青春の血が湧き過ぎて無茶ばかり 龍岩浦 奇 好子
□課題及び募集規定は欄外にあり

鴨などが鮮人の危害を加へざるを知つて部落近い沼に悠々と降りて居ると言ふ風であるから、鮮人服さへ纏うて行けば思ひ掛けない獲物を持つて歸る事が出來る、江華島通ひには發動機船があるから此れに午後から乘つて三時間許りの後甲串に到著し邑内か乃至は一里許り附近の松林中で黄昏頃空を蔽ふて

▲舞ひ降る雁鴨 を獵つて一泊して黎明頃又再び發足して二里半許り手前の草芝里迄海岸に沿だ田野山林を馳驅し尙時間に餘裕あらば有名なる傳燈寺附近の雉を獵り草芝里より發動機船に搭じて歸宅すれば一日を有効に狩獵が出來るし他の諸島と雖も鮮人の船を傭へば非常に都合がよいから警戒解除と共に前記各島は一時に獵天狗の跋扈に蹂されるであらう

●强盗團檢擧

水原郡を中心として其の他諸郡を荒らす

昨年六月以降本年十月中旬迄京畿道水原郡を中心とし龍仁、利川の諸郡に亙り數名一團となりて常に各市場より歸宅の途中なる通行人を棍棒にて毆打し人事不省に陷らしめたる後携帶の金品を强奪する賊あり其被害頻發するため水原警察署にて昨年來全力を擧げて是が檢擧に努めたる結果遂に左記の兇賊を逮捕することを得たり

▲龍仁郡水革面三街里元春植(二五)▲水原郡梧旺面廬儀里李元明(二七)▲同郡水原面山樓里趙敬化(三七)▲龍仁郡器興面芝谷里鄭鳳梧(四三)▲同里金順西(三三)▲水原郡安龍面長芝里朴光植(四九)▲同面畑里金擧天(三二)▲同郡陰德面北陽里裵元西(四二)▲水原郡水原面梅山里李福汝(三六)▲水原面山樓里金奉先(三九)▲同里李德允(三〇)▲同里崔成玉(三一)

右は三四名又は數名の一團となりて前後十數回に亙り龍仁郡内四面松門里崔模鎭(四〇)外十數名より强奪したる金品は三百五十餘圓に達し居り此程來水原署に於て嚴重取調中なりしが一兩日前何れも檢事局へ送らる

●腹に捲き付て阿片煙の密輸

支那人十二名の共謀

去月二十五日淸津警察署にては間島方面より入込みたる支那人一組が密輸の爲め多量の阿片煙を所持せるを探知し之が檢擧に努めたる結果山東省生れ徐省堂(三八)王喜文(五五)徐擧堂(三二)于吉時(四五)徐天唐(五〇)宋德福(四七)楊殿福(三四)李財領(六六)郭德(三八)姜文仁(三六)王順(三五)傀配山(六八)の十二名を逮捕し所持の阿片煙約七貫匁を押收したるが渠等は何れも四五百匁宛を扁平とせる阿片煙一個乃至三四個を腹部背部に巻き付け巧みに國境及び沿道官憲の目を忍びて淸津に迄入込みたるものにて此等の阿片煙は渠等が間島與地にて栽培したるより製造せしものにて間島に於ける時價は一千圓内外なるに過ぎざるも之を山東省に密輸せば三四千圓の價格を有するを以て之を密輸して巨利を博せんとしたるものなりと(淸津)

●出火頻々 三日三件 四日一件

三日午後二時頃京城旭町萬千閣裏手の芝原より發火し芝地約二十坪を燒失したるも大事に至らず消止む小兒の火弄りより發火▲同日午後七時頃寬動洞一七白用基方家人が裸蠟燭を持ち便所に入りしに火が壁に燃移りて發火したるも卽時消止む▲同日午後八時廿五分明治町二丁目工藤寅方家人不在中發火し一棟燒失したるのみにて常備消防消止む損害衣類家具二百圓家屋(石橋某所有)二百五十圓位の見込み原因火鉢の火ならんと▲四日午前一時吉野町二丁目飲食店輪鳳完方煙突より發火し常備消防出動草葺溫突二間燒失したるのみにて同三十五分鎭火せり

◎新畫展覽會 大阪なる銀行新聞社美術部は社員宮崎政近氏を渡鮮せしめ五日六日兩日京城旭町浦尾旅館に於て現代大家の表裝畫多數を陳列し一般の觀覽を許す陳列品は栖鳳、鐵齋、翠年、春擧、芳文、松年、桜谷、竹坡、觀山、大觀、少觀、玉堂、廣業、省亭、翠雲、觀音、竹外、翠石、松園、雅邦等百五十幅なりと

東西合併大相撲

△五日目の取組

兒島洋	朝風
見崎	風車
神錦	藤見嶽
逆鉾	小若島
敷島	宮木山
紅葉川	駒ケ嶽
土州山	日出山
小常陸	玉櫻
岩木山	時ケ嶽
大の川	大泉
宮城山	西の森
釋迦嶽	千舟川
對馬洋	有若
伊勢濱	時の矢
大錦	荒岩
綾川	松の音
九州山	朝日山
西の海	加古川

男島	朝日嶽
成瀬山	鳴門岩
駒泉	鶴渡山
一港	大砲
朝日山	響矢
荒玉	初嵐
龍ケ崎	大嵐
朝緑	大門
宇都宮	黒織
源氏山	朝日潟
栃木山	大達
黒瀬川	二瀬川

◆野犬狩始まる 京城市中にては明日來狂犬出沒して危險なるを以て其筋にては是が撲殺及び野犬狩りを開始する由なれば一般畜犬飼養者は頸輪を施すと同時に未だ屆出でなかりし向きは此際速かに屆出をなすべし

平壤 朝來秋晴にて市中數ケ所に大國旗を交叉し商店は何れも國旗を揭げ[illegible]
第七十七聯隊は練兵場に集合し東方に向つて捧銃の禮を行ひ君が代の喇叭[illegible]

釜山に又も新患者
山中學校にては危險を避け二日より向五日間休校する事に決し生徒一同[illegible]

讀者文藝 課題募集規程
●募集規程 [illegible]

天氣 晴れ後曇り 十一月五日 [illegible]

〈演藝案内〉

日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店 櫻井町 電話八七三 大正館
十一月卅一日天長節祝日晝間より特別寫眞提供 ▲實寫南米ウエルケ居牛場 ○活動驚くべき美觀 ▲米國マジエスティック會社大傑作
○泰西大活劇怪病院 全三卷六千呎
△尾上松之助一派出演 ○舊劇梅川忠兵衞 全三卷 大和國新口村在家農の倅忠兵衞が一世を約せし梅川今は苦海の憂き動め繁く通ふ忠兵衞惡氣地の達引き包裝金の封印を切り妻は嫉妬の色もなく夫に貞節を守り秘術に梅川を落籍して我家に迎ふ忠兵衞妻の誠意を感謝し梅川の父の仇敵を討ち惡漢の爲めに苦しめらるゝ山寺の住職を助け發名京阪に高め
△立花貞次郎、關根達發一派合同出演 ○新派大悲劇畫家の妻 全四卷四十六場 少壯有爲の畫家家貧ふして出品畫のモデルに困むとする貞操なる妻は奔走して此要用を調へ畫家の得意も束の間に愉むべし嫉妬に悩れたる一婦人の毒手と惡計は畫家の陰險に此良夫妻を離別せしむるに至る夫婦絶望して嘆き妻は無情に悲しみて死を決す併し大工長吉の活躍は彼の惡辣なる婦人及び惡家の謀計を阻礙せしむ哀れ良畫家夫妻の運命や如何に見る者をして泣かしめ袖を濡らさしむ
△寫眞長尺に付き正午後六時より開館可致候

大入御禮 黄金館
初日以來晝夜滿員 ユニヴァース社應用連鎖琵琶劇
帝大學生山中の慘死
實錄鼠小僧治郎吉
第二黑箱

御成町 電話一九一 御成座
第十四回番組 (一)無名之人(全九場) [illegible]

本町二丁目 電話二六六 有樂館
日本活動寫眞株式會社特約 [illegible]

第二黑い箱 第四編 芸の怨み、第五編 葬儀式 第六編 見えぬ恐怖 全六卷 南鄕公利、丸山南市、薄田半晦、長瀬新
▲十時四十分よりユニヴァース(キネオラマ應用)連鎖琵琶劇 甲武信ケ嶽 帝大學生の慘死 新琵琶師兒島旭州師の妙技と最新式ユニヴァース應用を以つて御覽に供す [illegible]

明治町 電話二六〇 浪花館
○初日目見得生粋の江戸落語三遊派幹事
○新改名披露 朝寢坊むらく改め橋本川柳 大一座來
○近日當地浪花館に於て改名披露かたく御引立の程願上候

大好評の大正館
舊劇 梅川忠兵衞 全三卷
新派悲劇 書家の妻 全四卷
活劇 怪病院 全三卷
餘興…本日より
大好評の下に御最負を蒙りたる小女浪花節「白吉川うの子孃」お名殘として本日より出演

天然色活動寫眞株式會社 Mカシー商會 朝鮮一手代理店
電話一八五三(階上)二六三七(階下) 黄金館
十月三十一日より臨時特別大興行 ▲六時十五分より米國ユニバーサル會社 世界的 探偵奇譚全十五編三十卷 [illegible]

解雇廣告
室 孝吉 三十七歲
右之者不都合有之解雇致候間以後關係無之候也
京城本町二丁目 吉田洋服店

宮崎縣人會
期日 十一月十一日(土)午後五時
場所 旭町一丁目 靜陽軒
會費 金貳圓 當日持參のこと
申込は九日迄左記兩名の内へ
黄金町三ノ一三六 中村滿一
蓬洞普通學校内 清水善左衛門

謝近火御見舞
昨夜近火の際は早速御見舞を辱ふし難有奉深謝候一々拜趨御厚禮申述可き筈の處混雜中御伺漏も難計乍略儀以紙上御禮申上候
京城明治町二丁目 金澤新藏 電話二五〇六番

MEP 品質本位 大阪唐物町四丁目飯田商店

小資本にて金儲け現
新案登錄器械にて活潑のもの素人にも出來る他に比類なき金儲け機械(三十名限り)詳細說明書にあり郵券二錢送れ
東京淺草八幡町 振替東京一六六八八 大澤商會

登錄商標 旅行鞄 用無比耐久 好評 鞄 定價表御送附 郵券二錢封入
東京市芝區見付町 内田靴鞄製造問屋

長男正恒葬儀の際は態々御會葬被成下難有奉存候乍略儀以紙上御禮申述候
大正五年十一月四日
加藤正美

歡喜の街

各地方立太子式奉祝

◆安東縣 三日午前八時二十分より領事館構内に於て官民合同の奉祝式擧行せらる定刻一同東方宮城の方向に面し最敬禮の後委員長吉田領事の奉祝文朗讀あり同三十分領事の發聲にて一同萬歲を三唱し次いで御眞影拜賀式あり一同祝杯を擧げて解散せり安東小學校生徒七百名は午後零時半より旗行列を行ひ奉祝歌を合唱しながら市內を練り歩き大和橋通、市場通、四番通、三番通、江岸組等孰れも美々しく飾り立てたる屋臺を出し之に各町內の藝妓連加はり假裝行列を先頭に思ひ〳〵に各町內を練り廻りたれば絃歌の響全市に滿ち人出多く非常の賑ひを呈したり各町內は天長節祝日より三日迄四日間引續き國旗提灯電燈等を以て種々の裝飾を施し菊花及び生花陳列會あり滿鐵側にても安東驛舍全部を無數の電燈にて裝飾し鎭江山腹には山形に大仕掛のイルミネーションを裝置する等宛然不夜城を現出し美觀を極めたり

◆江景 江景に於ける三日立太子式奉祝當日は市街各戶國旗提灯を掲揚し市民は午前九時三十分江景小學校に集合し遙拜式を行ひ式後同所に於て祝宴會を開き午後一時より江景神社に於て御大禮奉告祭典を執行し市民各自の參拜を爲し境內に於ては江景在鄕軍人會主催の擊劍大會ありて夜に入りては官民合同の大提灯行列を擧行したるが參加者數千名に達し盛觀を極めたり

◆群山 立太子式當日の群山は天候快晴全市は國旗軒燈を掲揚し港內碇泊船舶は滿船飾を施し午前九時三十分號砲一發と共に萬歲を合唱すべく群山神社境內に集合せる群山官民數百名は東方に向ひ最敬禮をなし司令者の發聲に和し一齊に萬歲を奉唱し此の間市內各寺院の梵鐘午砲一齊に打鳴らし三分間繼續後參會者は再び最敬禮を爲し解散したるが午後二時よりは群山神社に於て奉祝祭典を執行し神社境內には小供相撲、擊劍、柔道等の餘興ありて非常の賑ひを呈し夜に入りては各學校生徒を中心とし官民合同の大提灯行列を行ひ各町々よりは各意匠を凝したる假裝行列の參加ありて頗る盛觀なりし

◆釜山 立太子式當日は朝來快晴市民は道を淨め國旗を掲揚して休業し奉祝の誠意を表したり、釜山は虎疫未だ終熄せざるを以て祝宴其他一切の催し物を中止し單に各官廳側は午前九時迄に吏員を集合し同九時三十分當該上長官の發聲にて萬歲を三唱し各學校は職員生徒講堂に會し立太子式御擧行に關する講話あり午前九時三十分の號砲を合圖に各校長の發聲にて萬歲を三唱し龍頭山神社は同時刻より祝典祭を執行し市民側は商業會議所主宰と爲り龍頭山公園廣場に式壇を設け午前九時一同參集し午前九時三十分の號砲を合圖に大池會頭の音頭にて天皇陛下及び皇太子殿下の萬歲を三唱し集合せる市民五百餘名之れに和し何れも嚴肅に奉祝式を終へたり

◆開城 三日は天氣快晴、恰好の菊日和、町內は戶每に提灯を吊し國旗を立て滿街飾を施し各學校は午前十時より拜賀式を擧行し官民有志の參列も少なからず在鄕軍人會開城分會は鐵道公園に於て拜賀式を擧行したり尚大和町一丁目の內地人三十餘名は夜明樓にて奉祝宴を張り盛況を極め、夜は滿街の提灯に點燈し不夜城の壯觀を呈せり

神社とお寺と教會

◎筑前琵琶荒牧會 三日荒牧氏宅にて開催立太子式奉祝の爲め黑田庭水氏作「晴天鶴」を合奏し奉祝の意を表せり
○龍山西本願寺(元町二) 四日午後七時半より土曜講話あり講師は松原總長
○西本願寺(若草町) 四日午前九時より日曜學校あり午後七時半より日曜講演 松原總長の信仰百話三十八の說教あり
○京城日本基督教青年會 四日午後五時より中央基督青年會にて體育會を開く

出世の少年

其三 一縷の望

東京高等商業學校を卒業した米藏は、川崎造船所に入社した。豫てから米國を舞臺にして活躍しやうと願つて居た米藏は、二十五圓の月給の中から旅費を殘して行く事は到底不可能であつたので、終に意を決して或る日川崎副社長を訪れて、出し拔けに、

『先生、何卒紐育迄の三等旅費を下さいませんか』

と賴んだ。川崎副社長は米藏が神戶商業學校在學當時の校長であつたので、米藏の性行は能く知つて居たが、餘り突飛な話なので、靜かに問ひ返した。

『只貰はうと言ふのか』

『左樣です、借りても迚も返せる見込が有りませんから』

川崎少時米藏の顏を見つめて居たが

『ヨシ、お前の賴み方が氣に入つたから遣らふ』

と、

□一包の金子 を米藏に與へた。米藏は包を開いて見ると千圓の紙幣束であつたので

『之は少々多過ぎます』

と大かた口迄出かけたが、却つて失禮に當ると思つて、其の儘恭しく頂戴して引き下つた。其の夜米藏は眠らずに考へた。そして終に五百圓を自分の旅費に當て、百圓を實父に贈つて負債の利子や小遣にせられん事を請ひ、四百圓を東京に贈つて、三次郎、品子二人の學費とし、萬一兄が中途にして異鄕の土と化る樣な場合には、兄の志を繼いで、どうか實家を救つてくれる樣にと、

□最後の一言 を書き添へて、米藏は二十一歲の秋、海の彼方九千五百哩の紐育さして旅立つた。紐育は何と言つても世界の大都である。見るもの聞くもの、一として驚かざるを得ない、一哩六萬二千圓の土地に立つた米藏は竊かに懷中を探つて見ると米貨五十弗を餘すのみであつた。一日五弗の止宿料、十日間の命脈よりない、先づ職を求めたら二三十人はあらうが、他人の食に依つて生きるなど言ふ事は米藏にはどうしても出來ない、獨立獨行は米藏の主義である、生命である、さて何んとして此の運命を開拓したものかと思ひ煩ふ內に、不圖胸に浮んだのは亞米利加貿易會社長ジエームス、アール、モーアス氏のことである。同氏は曾て橫濱に居つて日米貿易に功勞があつた人だから、

□先帝陛下に 勳二等を授けられた巨人である、此の人に使つてもらつたら何とか將來の見込も立つであらうと、直ぐに其の會社を訪ふて社長に面會を求めた、取次の給仕は

『ナニ、社長に會ひたい、贅澤な事を言ふものじやない、支配人位のところで我慢しろ』

と言つた、米藏はすかさず

『お生憎だが支配人には用はない、社長でなければならないから社長に會ひ度いと言ふのだ、夫れをお前が取り次がないと言ふのなら二日でも三日でも此の玄關にウン立つて居て動かないぞ』

と頑から

□日本流儀の 一喝を食はした、給仕は仕方なしに取り次いだが、間もなく

『それでは此方へ』

と社長室に案內された。話堂の樣な大廣間に巨大な社長は電光の如き一瞥を米藏に與へて、

『貴樣は何處から來た』

『日本から』

『それは判つて居る。一體何しに來た』

『御社に使つて戴きに來ました』

『誰が傭ふと言つたか』

『斷りながら私自身が！』

之丈の問答が咄嗟の間に交換された。所が社長の御機嫌甚だ斜めで

『お前の樣な鄙い英語で、而も風體の異ふ此の紐育では迚も勤まる筈がない、社には用がないから歸れ』

と如何にもスゲない挨拶である、普通の者なら此處で腹を立てるか、あきらめるかして歸つてしまふのであるが、米藏は普通の男ではない、

□此の宣言を 輕く受け流して、社長を仰ぎ見ながら、滿腔の熱誠を罩めて

『恐れながら社長、唯今の御言葉は間違つて居るでせう、私は物心覺へてから此のかた、未だ一度も不正直な事をした事がない、又虛言を吐いた事がない、誠心誠意を以つて總ての事には、いつでも神樣の惠を受けて來た、私は今度はる〳〵海を渡つて此の國に參り、御社に使つて戴かうと願つて居ります、御社が私を使つて下さるならば私の眞心は神に通じて、御社は必ず神から私の誠意誠心を以て働いた報酬を惠まれる事と信じますが、何うか私を使つては下さいませんか』

と語つた。社長は

□何と思つた か之には應へないで米藏に紙いた。

『お前は文字が書けるか』

『ハイ、十人並以上に書けます』

『文章は？』

『之も十人並にはやります』

『それなら此處で何か書いて見ろ』

とペンと紙とをつきつけられた。此の場合一字の失、自己の運命を決するの基となるかも知れない、米藏は期する所あるが如くペンを執つて紙に對つた。そして細心大膽に

『私は誠意誠心自己の全力を盡して御社に奉公致しますから、貴下も出來得るだけ多くの俸給を私に與へて下さい』

と自分の推薦狀を書いた。之を見た社長は、初めて破顏微笑して

『一と先づ宿へ歸つて命を待て』

と言つた。

商況

公債直取引 (東京特電)
四日出來値段(前日との比較)
甲號 九九、九〇 / 一九〇
五分利 八三、九〇
一〇〇、〇〇

深川在米特電
四日現在高
朝鮮米 一三二七八
臺灣米 一八九五六
內地米 一〇五四八 / 六六五

東京期米特電
四日前場 一月限
寄付 六四三 / 高値 六四三 / 安値 六五〇 / 引け 六四四

大阪株式特電
新東、大阪株、大株、日本郵船、大阪商船、東洋紡績、大阪電燈、鐘紡、宇治川水電、京阪電鐵、阪神電鐵、南海電鐵、和歌山紡、合同紡、京都電燈ほか 前場二日 各値 [illegible]

大阪期米特電
四日前場 先限 寄付 一五、四六 / 一六、三〇 / 止め

下關期米特電
四日前場 當限 中限 先限 (寄付・高値・安値・止め) [illegible]

雜報

●粗布更に高し 粗布は其後益々高模樣にて本日の市場は更に四五圓高の三百七十九圓乃至百八十圓を唱へられ當業者も在荷の不潤澤より前途の供給不足を懸念し留り口は一致の寳ますといふ

●撚糸の昂騰 撚糸は昨日の大阪相場反子四十二番二百二十四圓とありて更に騰高ければ何れは三百三十圓を拔くべしとの豫想なり

●細布値上げ 細布は內地相場との均衡上四日更に十五錢の値上げを行ひたる結果建値は一等上の七圓八十五錢飛火七圓七十五錢となれり

●麥粉強人氣 麥粉は米國粉の昂騰原料小麥相場の昂進等より內地製粉更に高氣配を呈し最近の下關情報に據ればダイヤ二圓七十錢四國七十錢を報じ滿洲製粉又原料小麥の影響を受け頗る強硬の成行きを示し現下の相場は鋪ダイヤ二圓七十錢二圓五十五錢松二圓五十五錢ペカ一圓八十五錢を唱へられ此の如き安値より二十錢以上の昂騰を告げ居れるに昨今の產物相場に比較する時は尙二十錢近くの上餘地を存する事さへなり居れり何分不需期の今日とて急騰を見ろが如き事なきも徐々に相場を引締め結局內地粉の三圓滿洲粉の二圓七十錢迄は持上ぐべきか

●牛皮は睨合ひ 牛皮市場は行惱み中の軍靴注文の未だ發行提議たる折柄近來新期入品も少なからざる爲め同業者一般に依然手控へつゝある模樣にて昨今の市況は睨合ひの弱持合れといふの風情なるが如く相場としては同地の七十六七圓を唱へ來れるも當地に於ては之に引合ふ値段にては買人の手放さしるより目下殆ど見送り狀態におり唱へこしては依然正昧の七十七圓見當を維持し居れり

●精米引締まる

●十月中の生魚 釜山市場十月中の生魚賣揚高は總量八千九十四貫此金高八千七百三十二圓にして更に個數賣揚高によれば釜山三百五十九個群山六十五個仁川百五十二個元山百十二個統營二百九十二個合計九百八十個なり前月より百餘個の減退を示し居れり本年は虎疫流行の影響によりて非常の減退を示し居れり

▲燐寸先高構へ 燐寸原料なる鹽酸加里は其後左したる昂騰を見ざるも軸木原料なる松材楊柳は內地北海道滿洲とも品薄なれば製造能力之れに伴はずして製品不足の折柄需要期に入りて各地先高見越しの買進みあり露國向輸出商談又頻々行はれしめたる人氣強硬となり生產間に合はざるの狀態にあれば近く突飛の高値を示現すべき形勢なり

田中金兵衛 朝鮮米穀賣買取次所 電話二八〇二番

下關相場
▲朝鮮白米も氣強し 其後六十二俵の廻著に過ぎざるのみならず內地の正米の強硬なるに連れ產地高不引合なる爲め各米主の賣り腰強きに依り人氣強く一等白米百俵許りは稅關渡渡しとして十五圓十五錢に手合せ行はれ其他商用口への出來値は左の通り也
△朝鮮一等白米(當用) 十五圓三十錢
△同 十五圓四十錢

京城雜穀
一時暴騰を演せし在子は急激賣崩しの反動として此一兩日來に約一圓

京城正米
今朝の期米高は多少正米に刺戟を與へたるも昨今漸く糧の廻著を見るに至りしより兩內は頃日來より却つて仕切り強き模樣なり氣配は先づ底堅き持合ひといふのみなるが對人筋は朝來可成り買進み居れり

十月中の穀物
釜山穀物市場十月中賣買出來高並に取引値段市況左の如し

品目	最高	最低
慶尙米	四	一四圓〇
中白米	七九九	同 一三五
玄米	四二三四七	同 一三二
右內日本種	[illegible]	同 〇三〇
新穀中白米	一七五	同 一五〇
同穀玄米	一四	同 七五〇
大麥	四五	同 八九〇
古小麥	三七五	同 二〇〇
小麥	七四	同 四三〇
大豆	一六三二四	同 九〇〇
右內古大豆		同 六〇〇
新中白	一一〇三	同 八〇〇
新玄米		同 一五〇

合計六萬一千二百六十個にして前月四萬八千四百六十六個に比すれば一萬二千七百九十四個の增加を見せる此は大豆の搬出期たるを以て陸續廻著あり市場の賣買に於ては殆んど人氣大豆に傾注せし結果大豆のみにて一萬個以上の增加を示せるが市價に於ては前月に比し平均五六十錢の安値を致して賣買出來せるは內地よりの買注文なきもの日々の廻著品に釣込まれたる買ひなれば自然安値買ひの呼びもの多き結果なり其他玄白米は月初と月末との最低に甚だ大なる比を見ざりし(釜山支局)

確實 迅速
(定期米賣買案內 御報次第送呈)
仁川取引所仲買人 仁川海岸町 廣澤正次郎 電話六五番 一六〇番 六三二番

三十錢方を發表せる其の步調に所の歩調不一致より久しく亂調の徑に推移せし地場精米相場も今回組合の協定に依り標準値十四圓を取るべき模樣なり今日迄の賣値は十四圓一二十錢が普通なりしたる以て今回の標準値は前値より約一二十錢方を引上げたる譯なり

南大門の廻穀
▲三日分 平壤雜穀 七五叺
▲四日分 仁川玄米 七〇〇叺 釜山玄米一九五叺 平澤白米 五〇〇叺 始興粟 四二叺 烏山玄白 四〇叺 長湍粟 一八叺 平澤粟 八二〇叺 沙里院粱 天安玄白 二〇叺 水原粟 福溪小豆 二七叺 水原粟 金村白米 一八叺 水原粟 鐵原粟 三三叺

仁川現物市場
▲四日入津三千餘石 神力種七十錢より七十錢氣配忠淸道五十錢六十錢圓七八十錢等にて出來あり
▲正米入津中白二百餘叺氣配は更に一二十錢高の唱へ
▲大豆入津二百餘叺
▲小麥なし

釜山市場
▲正米(俗保合) 賣り物は少々ながらも相應にあり買人は本邦正米とも好勢に連れ安値にては商談に應ぜず移出口には一寸所今不引合の爲め買人なく精米筋も賣れ行き好況に連れ原料の買ひ悶へ人多く發して相場は底堅く强保合の商狀なり
△大豆直通品多くして品物の市場賣り物なく品待ちの姿に氣配好勢なり鏡高の狀況なり總高三千百十三個、中白五百九十個、玄米二千三百七十九個、大豆百十一個

仁川期米
▲四日前場 天候晴 兵庫十一月限大阪前寄十六圓三十錢と一昨止十二錢高の入電二節三十四錢と更に新高値移りにて當地寄二十一圓八十錢より十三圓〇五錢と漲り押し六錢と返して引十二圓十五錢たるも九錢より押上げて二十錢と暴騰し三十錢と押し直に三十七錢高に寄付たるも二十八錢と押したるが買物益々多く十三圓に跳れ一二十錢と更に新高値を報じたるより人氣益々騰し逐に十四錢と昂騰し直に二十錢と跳れたる折柄手仕舞物多く押目は又買物にて大に人氣を煽り頗ぶる強硬の成行を示し大崩ずる狀態を演出して散會

▲四日前場前場(中限) 十二圓八十錢 平均値段十一錢
(以下各限各節値段) [illegible]

市場零聞
▲遂に爆發す 米の益人氣を煽へたるも大阪の上放れ跡商高移りに十二圓二十錢を寄付けたるも漸く新規買物多く伸び目立ちたる大買物はれたるを以て堅跡へ買向ひたるより人氣に投ずる(以下略)

仁川米豆取引所
四日の一月限

	寄付	止め	高値	安値	出來
前場	十二圓二十五錢	十二圓四十三錢	十二圓四十四錢	十二圓二十五錢	六萬七千三百石

平均値段
一節 十二圓二十九錢 / 二節 十二圓三十五錢 / 三節 十二圓三十五錢 / 四節 十二圓四十二錢 / 五節 十二圓四十一錢

賣買取組高
十一月限 五萬三千二百五十石
十二月限 四萬七千百石
一月限 二萬五千二百平
前日と比較 一二三六 / 二五五 / 五五高 / 九八九五 / 〇五高

▲前場の手振 重なる商內賣方二萬二千餘石⊕千餘石④各五千餘石⊕⊜各三千餘石⊕⊜各二千餘石等に對し買方⊖一萬七千餘石⊕六千餘石⊕⊜各二千餘石等にて市場は頗ぶる盛況を呈したり

▲當限の買腰振 當限は大阪の跡商高移りに四十四錢と寄合し三十七錢と押したるも四十錢を返して散會を告げたり市況は先に向つて中米の更に高人氣振合ありと一面爭正も大に買人氣を煽へたると搗て加へて大阪高の人氣を得たる一面列唤の賣物多く頭せずして押せしも一時の賣人氣に偏し居りたる大勢を察する者あらん

▲人氣は大に沸騰 せす大に注意を要する者あらん

●⊖優勢商內 今前場同店より賣りたる玉數無慮二萬三千餘石に對し買ひたる玉數一萬七千餘石の大買の事一面七千餘石等にて大に市場の注目を惹いたり

●⊕能く賣る 前場同店より賣りたる玉數五千餘石に上りたりとの事一面千餘石の買ありたるも大に市場の注目を惹いたり

●⊕續て賣る 前場同店より賣りたる玉數三千餘石に上りたりとの事一面千餘石の買ありたるも熱心なる賣建に市場の注目を惹いたり

●⊕巨大に買ふ 前場同店より買ひたる玉數九千餘石に上りたりとの事一面二千餘石の賣ありたるも大に市場の注目を惹いたり

●⊕惡能く買ふ 前場同店より買ひたる玉數六千餘石に上りたりとの事一面二千餘石の賣ありたるも市場の注目を惹いたり

株式會社仁川米豆取引所仲買人 三巴仲買店 電話三二二番 振替口座京城四〇二

●⑩の商內 前場同店より賣りたる玉數五千餘石に上りたりとの事にて注目を惹いたり

▲期近活躍す 一時買方悲觀 玉數六千餘石買たる玉數五千餘石に上りたりとの事にて注目を惹いたり
あるも期近に大阪の吊騰を報ずるありしが仮令場當限の火災視せられたる明近に入って買方主力の渡鮮したる事稍强硬の趨度を示し來らん振り合なりしが僚然活況を呈しぬ

▲賣方悲觀に傾く 正米の今朝の現物賣方に十二圓八十錢よりは十三圓〇五錢中限又十二圓十五錢より三十錢と何れも今後人氣を受けて高氣配を唱へ居れり(以下略)

▲人氣沸騰す 更に高人氣を受けて高氣配を唱へ居れり

▲反動に買方悲觀 (以下略)

健康の鍵は 淺田飴 たんせき一切 よばき 人によし 本舗 東京 大阪 堀內

明治公債株式會社 社員募集
京城黃金町 釜山幸町 同所 太田榮町 群山曙町 淸津敷島町 平壤本町 元山仲町 大邱三笠町 木浦大成洞 咸興大和町
朝鮮支部 朝鮮外事部 釜山出張所 太田出張所 群山出張所 淸津出張所 平壤出張所 元山出張所 大邱出張所 木浦派出所 咸興派出所

桃印、菊水印、鈴印 ボイル油
カブト印 テレメン油
殺虫防腐 鈴印 クレオソート油
大宮り印 諸機械油
大宮り印 牛脂・ヘット
全上製精 カストル油
コールタール ピッチ
全 コールタール
其他油脂塗料製造
大阪 合資會社 吉川製油所

最も進歩したる 通信自療藥
●腦神經性 脊髓諸疾患
▲中風症 腦溢血半身麻痺不隨エンボリ腦充血
●背髓病 脊髓炎 勞衰弱 ●癲癇
●花柳病梅毒性 諸疾患
一淋病 膀胱病 尿道疾患 ●瘰癧病
以上疾患の患者自宅療法には元帝國醫科大學助手ビーエッチシー藥化學者川崎先生多年專攻創製の有効適良なる專門藥あり●同病困難者は病名記入申込次第無料詳報す
申込所●京都市三條栗田御門內 川崎自療法研究所

價川輕便鐵道
列車時間表
價川發 前六、〇〇 九、〇五 後一二、〇五 二、四〇
新安州着 前七、五五 一一、〇五 後二、〇〇 四、三四
新安州發 前九、一〇 後一二、二〇 後二、四五 五、三〇
價川着 前一一、〇三 後二、二三 四、三七 七、二八

內職 鼻緒製造 鼻緒は販路廣き日用品にて遠近男女共自宅で簡易に出來、練習次第で就業三四十錢の利益あり小資本で引受られ確實有望年中無休製品限引すさ 見本等送附は切手十二錢で製造案內見本等送る
東京市下谷區中根岸町八一 吉川合資會社

優等清酒 三巴正宗發賣元
京城府蓬萊町四丁目 三巴酒造場 電話一〇六八 振替口座一〇六七
大田支店 電話一三五
平壤支店 電話五一二
九月二十日より 冷卸發賣

入院隨意 酒井婦人病院
京城永樂町二丁目(商品陳列舘裏門通) 電話二六〇八番

煉炭 各岩炭 木材
合資會社 中村組平壤支店

純良 赤門葡萄酒 醫科大學病院御用
滋養補血ニハ 赤門葡萄酒ニ限ル
大阪道修町 小西商店洋酒部 各地有名藥店洋酒食料品店にあり

朝鮮代理店
京城 新井大藥房 電話九〇四番 振替京城一〇六番
同 明治屋 電話二一二番 振替京城四四番
平壤 森田藥舖 電話一二九番
仁川 井上商店 電話八六番
釜山 本嘉納釜山倉庫部 電話三一番
同 あつまや 電話三五八番

資本金 五百萬圓
頭取 安田善三郞
株式會社 百三十銀行 京城支店
京城本町壹丁目
電話長五八番 二一九四番 振替貯金京城二一三番
銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候
爲換取組先は內地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

イケダ小兒病內科醫院
池田季雄
京城三越呉服店前へ入る旭町四丁目 電話(醫院)二三四番 (自宅)八八〇番

宮本武藏

第二百六回

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

定吉はエヘンと咳拂ひをして 定「ヤイ此奴等此方へ出ろ、俺が調べて遣る、十兩と六百何で其麼にかゝつたのだ、箆棒め、其麼にかゝる譯が無ね、書附を出せ 金「ヘエ、其麼にかゝる譯がないと被仰いますが、手前共に永らく病つて居て醫者にかゝつて藥鑵を拂ひ、又亡くなりまして跡の取片付け及私共の旅籠代、合せて十兩と六百文に相成ります 定「醫者は何と云ふんだ 金「ヘエ、林文珍と申します 定「寺は何處だ 金「裏門通り光善寺へ葬りました 定「確とそれに相違ねいな 金「相違ございません 定「ヤイ亭主、誰か家の者を遣つて林文珍と光善寺を招で來イ 金「ヘエ是へ呼びますかナ」乃ぞ林文珍といふ醫者と光善寺の住職を呼びに遣りました、間もなく遣て來た林文珍は五十位の男光善寺は月代を伸し是も六十歳位、兩人其處へ參りますと定吉は 定「林文珍と云ふ醫者はお前か 文「左樣にございます 定「此の家に居た病人はお前が手掛けたと云ふことだが、何の病氣で藥は何を盛つたかそれを書付にして出せ 文「私は醫者ではございますが無筆でございまして 定「無筆で醫者が能く出來るな 文「手前は畫が好きでございますから藥箱へ畫を描いて貼つて置きます 定「甚麼畫を描くのだ 文「大黄の箱には閻魔を描いて貼つて置きます、定「何だ 文「閻魔大王でございます 定「こいつは驚いた 文「桂子の箱には反古紙を貼つて置きます 定「何で 文「消しでございます 定「大變な醫者だな、其麼者にかゝつた病人は災難だ 文「大方は全快をいたしません 定「此方の病人に其麼藥を盛つたのだ 文「葛根湯を用ゐましたので藥代は五百文受取りました 定「何だ、醫者で片手か 文「左樣でございます 定「光善寺此へ出ろ 光「ハイ 定「葬式は貴樣の處へ幾何納た 光「左樣でございます、百ケ日までの仕切が百疋でございます、それに穴堀へ三百文、困難を申し立てますからそれ限り一文も餘計には申し受けません 定「確と左樣か、然て見ると光善寺の方が一分と三百、それから藥代が五百と締て一分と八百だ、それに十兩幾何とかゝる譯はあるまい 金「手前共に永らく居りました旅籠代が入つて居ります 定「何を云ふんだ病人と小娘が居たつて幾ら喰ふものか、汝達は云ひがゝりをして此の娘を喰物にしやうと云ふ了見だらう太ゑ奴等だヤイ汝達○「親分何でげすね 定「此奴等をフン縛つて引叩け○「宜しうござんす」根が旅敗だから手暴い、忽ち金兵衞を始め二人の袢纏著を叩き仆して繩を掛け、棒を持つて○「ヤイ申し上げろ、上にては殘らず御存知なのだ △「イヤに氣取るな ○「氣取らなくツちやア追ツつかねえぢやアねえか」とピシ/\打つ 金兵衞始め二人は 金「恐入りました」と茲に白狀をした、曉雲は是を見て 曉「明日の朝俺が書面を認めるから定吉お前達三人で此者共を城内へ引伴れ役人に渡せ 定「宜しうございます」と其の夜は娘を勞はつて翌朝此の娘おみつも同道して城内へ參りました、係り役人立會の上で右の書面を見ると水野日向守勝成としてある開封して見ると出雲屋金兵衞の罪狀が細に認めてあり、猶此のみつなる者を江戶表へ送り届ける樣との頼みの狀でございますから、乃で役人は一應金兵衞等を取調べの上入牢申し付け、おみつは厚く介抱いたし江戶表へ送り遣はしました、茲で定吉等は充分改心をいたしたから、曉雲は猶も懇々と意見を加へ正業に就く樣にと諭し金子を與へて三人に暇を遣はしました、乃で曉雲二天は岩沼を立て阿武隈川を渉り仙臺の城下へ入つて參りました、

消化と毒けし 仁丹

發賣元 大阪市 森下博藥房

秋郊の情趣は
到る處に掬す可く

今は旅行、散歩の最好季節……イザ野へ、山へ

一粒爽快
佳味芳香 仁丹を御携帯遊ばせ

仁丹主効
◎惡疫豫防 ◎胸腹痛み
◎嘔吐下痢 ◎頭痛目眩
◎時候傷り ◎舟車の暈
◎寢冷に ◎酒責毒消

笑話 そそう

急病家へ或る醫者脇差を取違へ拍子木を差して行き、いこう笑はれけるゆゑ面目を失ひ咄どもそこ/\に女房を叱らんとて、我家へ歸るを間違へて隣へはいり「おのれ悧い奴誰座の中にて恥を與へたる不屆者め」と叱りつくれば「これはしたり何を御叱ります」といふを見れば隣の女房、ハツトびつくり我家へこんで歸り女房の前に手をついて「只今は粗相申しました」

雛亭會發兒
「漫畫と落語のどほさけ」より轉載

金言
決行する前に
協議せよ
【和蘭俚諺】

十一月六日 九紫 舊十月十一日 丁未 本命八白 艮 納 友引

●八白● 轉居の事ある日新事見合東方は吉 暗劍殺 ▲九紫● 萬事よき日轉居入學金錢名弘求職 ●一白● 造船普請合資組合等萬吉 ふさ引手を喰はんとす注意新事手控 萬事閉塞は妨なし ▲二黑● 立られ損となること有日 新事手控萬事は吉 一切の利事せぬがよし ▲三碧● 胸におちぬ事有日新事手控萬事は吉凶爭を防がるべし ▲四綠● 平運の日物の下押た處は吉新事手控 萬事興業は妨なし ▲五黃● 理窟の通らぬ事有日新事手控萬事は吉女子は行儀を守らるべし ▲六白● 利益多き日轉居開業入門名弘求職普請上金錢婚禮等萬吉 ▲七赤● 評判よき日轉居 行商入學名弘求職金談婚姻取産子女を定る事等吉

◎マラリアに一番ヨクキククスリハ
龍山林藥房製劑の
マラリア特効丸
藥價 金拾錢參拾錢五拾錢▲郵税貳錢
◎ニセモノアリ御注意◎
本舖 龍山 京城本町一丁目 ⒽH林藥房
代理店 山岸天祐堂

男の生殖器病
生殖器發育不完全で包莖とか陰萎、早漏、遺精、夢精、勃起不全、交接不快、快感減少腦神經衰弱などの人は自宅で簡單秘密に新案特許眞空療法器と原因療藥を併用する時は一回每に効力が現はれ豫想外の偉効に驚くべく知名博士も其實効を證明し實驗諸氏の賞讃湧が如しハガキで申込あれ圖入說明書無代贈送す直接來所者には醫院部にて懇切に說明す
驚異的効有る專門療器 一度實驗せよ効顯卓絕
東京神田かぢ町五 電話神田七三二番
東京 眞空療法研究所

帝國大學病院 赤十字社病院
陸海軍各病院 公私立各病院
御採用品

消化新藥 柏木ヂアスターゼ
糖化力最強にして
効力常に一定す
發賣元 大阪道修町三 田邊五兵衞 大阪平野町二 岸田市兵衞 東京本町四 田邊元三郎

診察時間 自午前九時 至午後六時
初診の御方は可成午前中
京城長谷川町一丁目（朝鮮銀行裏門前）
シメノウチ齒科醫院
電話八二二番

りん病 ばい毒 專門藥房
吾が社は天下に名の有るりん病ばい毒藥から如何なる世界の果にて製造して居る藥でも悉く蒐集して一々に實際の効力を試驗して居ります、而して自家製藥の改良に努めて居ります、吾が社の藥が常に世界唯一無二の良藥であるとの評判を得て居りますのは、只世界の有りと有らゆる淋病黴毒藥の長所を取つて製藥致び製法に間斷無く改良を加へて行くからであります、吾が社は他の如何なる淋病、梅毒藥とでも効力に對する競爭試驗に應じます。詳細は拾月拾日の京城日報御覽
◎りん病藥一週間分普通壹圓貳拾錢特製貳圓 ばい毒藥一週間分普通貳圓特製參圓
近頃各地に僞ドラッグ續出せり御注意を乞ふ 送料十二錢引換送料廿壹錢
京城南大門外停車場通り
ドラッグ商會朝鮮本部
本舖 大阪 合資會社 ドラッグ商會
電話 二三六七番 振替京城四六七番

アドラ
眼科大醫にして高峰博士發見のアドリナリンを點眼料に處方せざるものなし
アドラは一流大家の點眼料と等しきアドリナリン配合の眼病神藥なり
定價 大瓶金貳拾五錢 小瓶金拾錢
市內及全國有名藥舖にて販賣す
東京室町 泰昌製藥株式會社

京城日報
第三版
五日朝刊 (夕刊と合せて八頁)
發行所 合名會社 京城日報社 京城太平通一丁目
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介

大阪株式特電

五四九、五〇 … 中十二圓二十二錢より三十錢と押し更に三十三錢と議れたるも賣物多く二十七錢と押して引先十二圓四十七錢と四圓高に寄付たるも利喰に新規に賣物多く徐々に下道び三十九錢と押し四十 … 一錢と返したるも結局三十六錢の安値取合を告げたり市況は … 不知今後の …

鵲巣居閑話
蘇峯先生談　中島生

(二) 立憲と非立憲

近頃世間では、立憲とか、非立憲とか、種々議論があるが、どうも自分の腑に落ちぬのは、政黨を基礎とした内閣でなければ、非立憲であると云ふ意味の議論が、新聞や雜誌に散見して居ることである。

元來立憲的とは、憲法の旨義に遵由したる行爲施設を意味するもので、其の反對が卽ち非立憲である。乃で立憲的と非立憲的との差別を判斷するには、憲法の條章を以て、唯一の標準とせねばならぬ次第であらう。

憲法と謂へば、英國の憲法でもなく、米國の憲法でもなく、乃至佛獨の憲法でもなく、我が帝國の憲法であることは、論を俟たぬ。

扨て我國の憲法に於て、何れの條章か、内閣は政黨を基礎とせねばならぬと云ふ事が書いてあるか。我が憲法には、政黨と云ふものは、一切其の存在を認めて居らぬのである。政黨は憲法の條章に依て設定せられたる機關にあらずして、政治上自然の勢力、若くは偶然の事情より出で來りたるものである。乃で政黨を基礎とする内閣は、非立憲であると云ふ理由もない代りに、政黨を基礎とせざる内閣は非立憲であると云ふ理由もない。政黨を基礎としての内閣でも、基礎とせずしての内閣でも、苟くも其内閣が、天皇の大權の下に出で來つた内閣であれば、内閣其ものを目して、非立憲なぞと云ふことは、できぬのである。但だ其の内閣が、憲法の條規を紊亂し、隨意放恣の行動を逞しくするに至りては、其の内閣が政黨を基礎とするにせよ、せざるにせよ、乃で非立憲的と云ふ批難の理由も出で來るのである。善い事もせぬ代り、惡い事もせず、唯だ出來上つたばかりの内閣に向つて、非立憲呼はりをするなどとは、全く以て狂氣の沙汰と謂はねばならぬ。

我國の論客、政黨者などには、隨分勝手次第の出鱈目を吐く者がある。例へば、一方には、政黨を基礎にする内閣でなければ、非立憲であると云ひつゝ、他方には、元老などと云ふ者の政治上に喙を容るゝのも、亦非立憲であると云ふて居る。何故非立憲であるかと云ふに、元老と云ふ制度は、我が憲法上には識認して居らぬからであると云ふて居る。然かし、元老が憲法上に於て、識認されて居らぬなれば、政黨も亦識認されて居らぬのである。自分に都合好き政黨の意見を聽くは、立憲的であり、都合の惡き元老の意見を聞くは、非立憲であると云ふは、如何なる道理に依ての判斷であるか。それのみならず、其の蛇蝎の如く嫌がる元老さへも、時としては、元老出でずんば蒼生を奈何などと云ひ、現に元老會議で大隈侯を推薦した時には、元老を救世主の如うに崇め、同じ元老會議が、寺内伯を推薦した時には、直ちに非立憲呼はりをするなどとは、餘りに人を莫迦にしたる放言ではないか。要するに、彼等は日本帝國憲法の根本原理なる、天皇の大權と云ふことに、未だ充分なる理解が無いからであらう。若くは理解があつても、感情や利害の爲めに、其の理解を妨げられて居たが爲めであらう。

結局、我が内閣は君主に對して、責任を負ふものであつて、君主は其の大權に依て、閣員を任免し給ふ譯であるから、政黨員であるにせよ、なきにせよ、要は唯だ、適才であるや否やの如何に依て、其の御選擇は定まるのである。其の御選擇の御參考として元老に御諮詢あらせらるるのも、是れ亦大權の作用に外ならぬ。若し元老が憲法の旨義に背反したる意見を立て、若くは之を行ふた場合には、之を目して非立憲と云うて宜からう。併し元老其ものを目して、直ちに非立憲と云ふならば、政黨其のものも、亦非立憲と云はねばなるまい。帝國の憲法は、斯くの如く狹隘なるものではない。我が君主の大權は此くの如く局限せられたるものではない。但だ斯くの如く君主の大權が廣大なるが故に、從て人君の天職を行ひ給ふ、君德の養成が必要である次第である。

日米の對支協力(上)
布施知足

數月前支那朝鮮を經て日本に遊べる米國の富豪ダイリー氏は歸來頻りに日本實業家の對支協力を力說して著るしく彼邦識者の注意を惹けるに似たり先月二十二日の紐育ヘラルド紙は報じて云ふ『ダイリー氏はヘラルド紙に日本支那視察の結果を發表したり要點は日米資本家及び實業家は協力して支那開發に當らざるべからずと云ふにあり』云々と仔細に氏の所說を觀るに氏は先づ日本の發達が依然として著るしく萬事に附けて之を度外する能はざるを指摘し次で支那が目下最も必要とする所は金にして而も米國資本家は政府が適當の獎勵を約束だにせば容易に支那の必要に應ずべきを說き支那の實業的開發には日米兩國は協同して事に當らざるべからずと結べり氏は更に進で『日本が早晩極東に於て彼れ自身のモンロー主義を採用するに至るべきを疑はずされど之に關して米國は何等反對すべき必要を見ず日本は之れに由つて決して各國の既得權乃至既に決定せる事項に對して侵犯することなかるべく唯支那の政治上の關係に就てのみ全力を擧げて之を應用せんとするならん故に支那の商業的開放は之が爲却て永久に安全なるに至らん』云々と陳べて終に日支米三國は永久に親善なる關係にて有り得べきを信ずと結べり吾等は平生吾邦人が其對支意見に於て經營の範を露國に採らんとするを米國近時の活動を不快視するとの謂れなきを信ずるが故にダイリー氏の上記所說に會ひては偏に吾が所懷の裏書せられたるの感無き能はず更に世論が氏の提言を迎ふること甚ろ冷やかに過ぐるを見ては亦たや不平の念なき能はざるなり米支の國際關係は必ずしも新らしきものにあらず否其接觸は日米の接觸より古くして實に西曆一七八四年に始まる乃ち米艦が我が浦賀灣に出沒して通商を求めたる一八三七年より五十三年の前にあり提督ペルリが來航の歲卽ち一八五三年に先つこと九年一八四四年には既に米支の間に條約締結せられて兩國が早く政治關係に入れるを見る其修交此の如く古しと雖兩國の關係は最近二十餘年前までは未だ必らずしも疎隔なきものにはあらざりき否其移民に對する處置の苛酷なる米國は寧ろ支那の怨恨を買ふも決して其歡心を博すべきものにはあらざりき其僅かに從來の態度を一變して支那との親善を圖るに至れるは實に日淸役後列强の目が堤を決せる水の如く支那の利權に注がれし後にあり米國は獨り口に米支の親善を力說するのみならず又事實に於て之を實現すべき機會を待ちたるが機會は團匪事件と共に來れり乃ち米國は列强を說いて其賠償要求の金額に斡旋したるのみならず自ら得べき五千萬弗を辭して代りに留學生を派遣せしむるの約を結び以つて容易に支那人士の歡心を博する事を得たり之を始めとして米國の對支活動は愈々盛んに日露戰後に至りては突如として滿洲鐵道の中立を提議し次で錦愛鐵道の敷設を企て此二つは共に日露の抗議に會ひて破れたりと雖、次の導淮水利計畫に至りては終に成功し其事業の支那の民生に利すること大なるの故を以て支那人の感謝を博すると共に米國は自ら一歩を占め而して列强も亦事業の性質より視て敢て之に異議を挾む事を得ざりき

藤公と穎翁(上)
(家寶交換記)　霞南

予固と烟霞の癖あり、古書畫を愛すること金玉に過ぐ。顧みれば一二年の昔しにやありけむ、一日畏友權藤君四郎介、賴山陽の眞蹟を珍藏すと聞き、電話して一覽を請ひぬ。君、予の行くを待たずして、自ら書幅を携へて來り示し、且曰く此の七絕詠史に似たれども山陽詩抄に載せず、又一字讀む能はざるものあり、自ら安んせざる所以なりと。

予展觀一瞥、卽ち山陽の面目躍如せるを見、膝を打つて激賞し、其の眞筆たる纖毫の疑なきを告げ、且曰く此の書蒼勁にして幽致あり、所謂大雅筆を用つて書けるもの蓋し晩年の作なり、故に詩抄になきも遺稿中には必ず之れ有るべしと。乃ち倶に遺稿詩集を採ぐるに。果して詠史十一首中に之を得たり。卽ち左の如し、

覇戰會經入洲跡、鶻棄終寄一枝安、却收當日投餘筆、自寫千兵萬馬寒、

君の以て讀むべからずと爲せるものは、承句四字目の寄字にして、看者多くは讀み難しと言ふも、實は是れ山陽得意の草法、穎翁の書中屢々見る所なり。仍て予耶馬溪記中同字體あるを示す。權藤君狂喜、山陽知己を得たるを稱し、其の書幅を予の家に留め數日の玩賞を許して去る。爾來同好の人々を招きて之を示すに孰れも一見して其の眞を感せざる者なし。蓋し神識髣髴心眼を射て誤らざるものあればなり。予山陽の筆蹟と稱するものを見ること幅と額とを併せ其の幾百なるを知らず、而して異物と認むべきもの殆んど五指を屈するに足らず。李滄鱗嘗て董其昌の書に跋して曰く古人の書愈久ふして愈少し、華亭の書久ふして愈夥し、若恐る再百年の後ち三家邨裏の書は盡く是れ華亭の筆墨ならむ、然れども此の異跡を觀るに世の僞つて華亭と爲す者は、雕馬を斷いて肯て斷かざるを見るべき也と。若し予をして此の山陽の書幅に跋せしめば亦只滄鱗の言を反覆すべきのみ。去月の初總督府の會堂に會餐せる砌、山縣政務總監の話頭權藤君より山陽書の鑑識を求められたるに及ぶ、衆皆共に其の轉覽を請ひ、數日の後ち、之を觀るを得たり。卽ち予の先に激賞措かざりしものなり。山縣閣下曰ふ其の異蹟たるや疑ふべからずと、衆皆之に同す。予再び此の書を見て奮威勃然として興り欽仰止む能はず。爾來其の筆彩夢寐の間に往來して忘るゝ能はず。

權藤家所藏の
賴山陽の書幅

第四回 朝鮮短歌會選歌(一)
宮崎與八郎選

(十點)　江華郡
美しき朝の小川に手を浸けてしみじみ秋を懷かしみけり　京城　村田比呂夢

(七點)
西の空、眞紅に燃ゑて碧桐の一葉搖れなく靜かなりけり　京城　西山しのぶ

(同)
わら灰の靜かに舞ひてたそがれのいたみし心に秋の風吹く　淸凉里　沼上文泉

(七點)
悔恨の淚わりなむ血に染みし心抱きて秋たけにける

(六點)　龍山　三村秋月
涙もて築きあげたるわが覺悟誘惑の町に高く聳ゆる

(同)　京城　高須賀默
秋の野の揃ひ悲しさは燒石の小さき一つも吾にしたき

(五點)　京城　石花鳥京蒂
銀行の石階の灯影に乞食等は今日も來て居ぬ秋風ふくに

(同)　淸凉里　沼上文泉
自暴自棄すさめる心秋風の夕日の中にすゝり泣きする

(同)　京城　佐々木抽子
あすの日の勞働も忘れひと時をかけ行く雲をなつかしみけり

(四點)　京城　坂本萬里子
めさめたり生の喜悅をあけぼのに拾ひしまゝに我れ泣けりして

(同)　京城　佐々木抽子
腹立ちも色に出さずなりにけり母逝きませし十八の秋

日報詩壇

○記雲顯先生之事寄勸農園主彼寄四首　高田小芥

抱志蹉跎不怨天。儒巾道服謝塵緣。精忠說及楠公事。噓腕秋稜鳴机邊。
勸儉施人又許躬。一瓢道味個中催。蓋天六尺浩然氣。應自先生菜食來。
勸王熱血滿身流。發作詩文聊遣愁。讀到忠邪吟斷處。鬼園小冊是春秋。
把劍昂然笑伏雌。乍窗囚擄苦吾思。彈琴每掩悲歌淚。多恨多情唱竹枝。

評曰　感激褒若、淋漓盡致

釜山觀月和村上琴屋寄懷詩韻抑呈

南樓無伴倚憑欄。獨對琴樽發自寬。滿坐淸風與吾好。中天皓月任人看。桂花香散吟心爽。玉露聲沈氣寒。預約年期此夕。碧雲湖畔鶴前歡。

評曰　有情有景、曦筆如意

○金剛山遊草　橫田天風

將遊金剛山有作次安永春雨詞兄見贈韻

萬壑千巖試短笻。尋幽闢祕盪心胸。水雲身世與秋瀟。飄渺魂飛第一峯。

評曰　上逝第一詩已有此佳作此遊多逸興可以卜也

過鐵原平野

野草離離太古村。秋花競艷午風翻。縱橫鐵路百年計。誰墾荒蕪開富源。

評曰　人人過此地、異有此感

秋浦

寥濶高原望轉寬。牧羊蹤跡灰棚亂。峰遠近雲呼雨。風拂征衫夏衛寒。

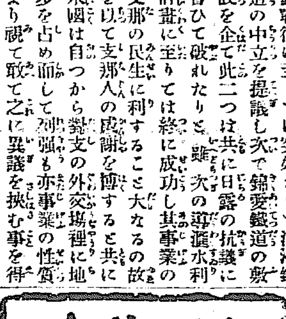
評曰　余曾遊衰古、麗看這般風景、百誦不厭

三防

路入三防奇景開。神斤鬼斧壁崔嵬。奔湍墜道迎又送。出龍關塞呼欲來。

評曰　實況、又是關山之筆

奉祝



大石南山　謹篆
文曰　鶴鳴九皐聲神于天

前號發賣禁止本號益々活氣横溢

朝鮮公論

十一月號　口繪六頁

◇十月號は不幸にして治安妨害の廉を以て發賣禁止(朝鮮内に限り)となれり十一月號は更に全誌秋霜烈日の大文字を以て滿たさる憂國の士は一刻も早く之を讀まざる可らず

公論室々
◇腐敗紊亂其極に達せる朝鮮鐵道局！社會疑惑の焦點となれる大屋權平長官彼れを解剖し此れを糾斷して餘す處なき筆者の鋭鋒は威風堂々として茲に其第三回を重ね益熱烈を加ふ見よ又々一大不正事件現る
腐敗せる朝鮮鐵道局解剖(三)
寺内内閣論
長谷川總督論
寺内を送りて長谷川總督を迎ふ
一百五十萬圓の靈藥…今津技師
神經衰弱と攝生法…森安博士
超然内閣の出現と大正國民の覺悟…國民黨總理 犬養毅
新任石塚東拓總裁を迎ふ…朝鮮公論社長 牧山耕藏
惡商人防衛策…商賣繁昌新工夫
偉大なる言論の權威
鮮鐵の解剖と世論
滿洲見聞記(五)…泰山生
洋妾お靜の根膽…水流生
鑛業界
明治大學閥
人物月旦 宇佐美勝夫論
京城地人錄(旭町三丁目)
水原秋…茸狩らずの記
西鮮の旅
京都の秋
公論文壇
米の湖南線…SŌ生
京城藝妓の表裏
定價一冊金二十五錢…郵税一冊一錢五厘
購讀申込所 京城太平通二丁目 朝鮮公論社 電話二四〇〇番 振替口座京城二五七七番

非常な好評
忽ち三版
貯金の出來る生活法
加納子爵・山脇博士・棚橋絢子・嘉悦孝子序…(東京家政研究會編)
東京家政研究會

寫眞
寫眞銅版・亞鉛凸版
京城日報社 寫眞製版部

宋岳飛先生著
前出師表　法帖仕立 金七十五錢
後出師表　法帖仕立 金七十五錢
弔古戰場文　法帖仕立 金二圓五十錢
精華堂

一般國民必讀
大中小學教員研究の廿大論文
日本一
元老論
新商業道德論
日本銀行解剖
富士山公園論
意外錄
大阪陣

各宮殿下の拜賀

三日立太子式を擧げさせられたる皇太子殿下には同日午前九時陸軍歩兵大尉の御正裝にて御座所に出御折柄御參上の伏見元帥宮同妃、閑院大將宮同妃、東伏見宮同妃、伏見若宮同妃其他各宮殿下同妃殿下並に李堈公殿下に御對面御拜賀を受けさせられ更に午後御參上の淳宮、高松宮兩殿下に御對面拜賀を受けさせ給へり(東京特電)

△御晩餐會

東宮殿下には四日午後五時淳宮、華頂宮其他各殿下の御欣賀を受けさせられ後御晩餐會を開かれ各殿下と御會食御學友なる南部信克、堤經長、松平直國、大迫虎彥の四氏に御陪食仰せ付けられたり(東京特電)

△御用掛へ下賜

東宮殿下には立太子禮御擧行に付殿下御幼少の頃御用掛として御側近く奉仕せし婦人十名を四日正午東宮御所に御召の上表御殿に於て鄭重なる御料理並に御目錄を賜はりたり(東京特電)

◎經濟調査會開會

寺內內閣に於ける經濟調査會第一回は四日午後一時三十分より首相官邸に於て開會首相以下各委員參集首相より大要左の如き演說ありたり(東京特電)

(前略)本官は前內閣の施設を繼續し各位の調査審議を尊重し以て爲政の參考に供し國力の充實を圖らんと欲す各位幸に此の意を諒し益々進んで諸般の調査を遂げ以て經濟調査會の目的を達成せられん事を望む

◎海軍進級と淘汰

海軍定期進級案は天皇陛下大演習還幸後御裁可を仰ぎ來月一日發表せらるべく而して中佐より大佐に進む者約三十名同機關大佐六十七名少佐より中佐に進む者約五十名にして淘汰せらる可き者は中將、少將、約十名大佐三十名又中將に進む者は三名乃至四名に達すべく尙大將に陞進すべき中將は吉松第一艦隊司令長官、藤井橫須賀鎭守府長官の二名に確定せりと(東京特電)

◎阪谷男の報告

阪谷芳郎男は四日午前十一時官邸に寺內首相を訪ひ聯合國經濟會議の經過並に露佛英米の經濟狀態に就き詳細報告せり(東京特電)

◎大島陸相觀戰

大島陸相は四日朝京都經由鳥取に向ひ其れより更に九州特別大演習觀戰に赴くべしと(大阪特電)

◎吉田領事出發

安東駐箚領事吉田茂氏は四日午後六時三十分發列車にて歸朝の途に就けり(安東特電)

◎朝鮮の工業教育

●總督府の實業教育調査●

總督府に於て本年六月より着手したる工業教育調査委員會は朝鮮に於ける工業の普及發達を教育の根本に於て進歩せしめんとし學務關係者によりて調査中なりしが其後商業教育も亦之に加へて調査を行ふことゝなり實業教育調査委員會と名を變更し引續き調査の進行を圖りつゝある次第なり今回調査の參考資料として朝鮮の工業教育の敎狀につき調査せるものを見るに即ち

▲工業教育の變遷 朝鮮に於ける工業教育は明治四十年韓國政府に於て統監府指導の下に工業傳習所を設立し染織、陶器、金工、木工、應用化學及び土木の六科を置きたるを以て嚆矢とし爾後明治四十三年京城於義洞公立簡易工業學校、大正四年黃海道海州公立簡易工業學校、大正五年慶尙北道咸昌公立簡易女子機業學校、京畿道龍山公立簡易工業學校、平安北道新義州公立簡易工業學校、全羅北道全州公立簡易工業學校、平安南道鎭南浦公立商工學校等相踵で設立せられ又別に工業傳習所の組織を變更して官立專門學校の設立を見るに至りたるを以て今日に於ては其の數官立專門學校一、官立工業學校(附屬工業傳習所)一、公立工業學校(鎭南浦商工學校工業部)一、公立簡易工業學校七、私立簡易工業學校二合計十二校を算せり而して右公立に係るものは鎭南浦商工學校を除くの外何れも之を公立普通學校に附設したるものなり

▲修業年限等 前項官立專門學校及び附屬工業傳習所を除きたる公立商工業學校工業部及び公私立簡易工業學校の修業年限等を擧ぐれば左の如し

學校名	教科	修業年限	生徒定數	卒業者	經費
京畿於義洞公立簡易工業學校	車輛 建築	一年 一年	三〇	二五	四〇七
同龍山公立簡易工業學校	木工 金工	一年 一年	五〇	…	三三二
全北全州公立簡易工業學校	木工 竹工	二年 一年	三〇 三〇	…	一、八六五
慶北咸昌公立女子簡易職業學校	機業	一年	一五	…	二、三六六
黃海海州公立簡易工業學校	木工 金工 石細工	二年 二年 二年	四〇	…	一、九七七
江原鐵原公立簡易工業學校	彫刻 窯物	二年	二〇	…	九三六
平南鎭南浦公立商工學校工業部	木工 金工	二年 二年	五〇	…	五、四六三(商業部を合せて)
平北新義州公立簡易工業學校	木工	二年	一〇〇	…	一、九五五
同私立義州女子技藝學校	編物 手藝	普通科 六月 高等科 六月	四〇	…	三、一〇八
同私立宣川女子技藝學校	手藝 機業	一年 六月	四五	…	一、九二〇

▲卒業生と教師 簡易工業學校は創設日尙淺きを以て卒業者を出したるは於義洞簡易工業學校の外義州、宣川の二私立女子技藝學校に過ぎず而して於義洞公立簡易工業學校は主として從業者を收容するものなれば卒業者は何れも相當の知識技能を得て之を其の職業に應用し得る相當成績を收めつゝありとのことなり義州、宣川の二私立女子技藝學校の卒業者は未だ報告に接せざるも約百人に達すべく而して其の狀況は大半家業の傍ら修得せる技術を利用して編物、手藝、機業等に從事し居るもの如し簡易工業學校は何れも公立普通學校に附設せるものにして學校長は普通學校長の兼任たり教員は普通學科に對しては普通學校訓導又は副訓導兼任を以て之を擔當せしめ工業科の教員に付ては專門の知識技能を有するものを任用するの制を採りつゝあり前項工業科教員の資格は於義洞は工業傳習所職員を囑託したるものにして工業教員養成所速成科卒業者一、工業傳習所卒業者一、實際の技術者一、海州は縣立職工學校修業者一なり

▲普通學校の手工科 普通學校の手工科は規則上必須科目にあらざれども之が施設を奬勵し來りたる結果最近の調査に依れば公立普通學校總數四〇三校の內手工を課するもの一二九校に達し尙逐次增加の狀況なりと云ふ而して手工は第一學年より之を課することを得るも土地の狀況並生徒の年齡等に依り多少酌量を要するを以て或は第二學年より之を課し或は第三、四學年に於て之を課する等ありて各學校一定せず手工は地方に產する材料を採擇して之を課するものなるを以て其の種類も隨て一定せざるも目下各道共通に行はれつゝあるは藁細工、裁縫工等なりとす而して之が教授は勤勞の習性を養成すると共に利用の方法を知らしめ以て生活の實際に裨益せしめむことを期しつゝありと

◎內鮮農產品及其加工品の出入狀況(八)

朝鮮農業開發の根本研究

▲雜穀 雜穀中特記す可きは粟、高粱、玉蜀黍なり、粟は大正二年に十九萬石百四十五萬圓なりしも大正四年には四萬石二十六萬圓となり高粱は大正二年に二萬三千石十七萬五千圓なりしもの四年には二千石一萬圓に減じ玉蜀黍は二年に二萬石十三萬圓なりしもの四年には一萬石五千圓に減せり產地は何れも殆ど滿洲なりとす

▲葉煙草 專賣局製造の刻切卷煙草の混合材料として米國產葉煙草を輸入す其の額は專賣局需要の程度に依り增減甚だしと雖も最も多きは大正三年の四十萬貫百三十五萬圓少きは大正四年の二十三萬貫七十九萬圓なり

▲藥草及染料 大正三年に於ては麥酒調味料たるホップ約四十萬圓は主として獨逸より藥劑原料たる甘草十萬圓は支那よりサフラン約廿萬圓は佛國及び西班牙より染料たる乾藍約三萬圓は英領印度より輸入せり、大正四年に於ては獨逸ホップの輸入杜絕に逢ひ其の半額を米國より輸入し化學染料輸入の影響を蒙り乾藍は約十萬圓を增加せり

▲棉花 紡績業の盛況に伴ひ其の輸移入高は二億三千萬圓に達し輸移入品中第一位を占む、棉は太絲原料たる印度棉大部分を占め細絲原料又は混紡材料たる米國次位に在り朝鮮棉は大體米棉の代用として使用せらる而して輸移入國別は產地相場の關係により割合に多少の相違を免れざるも大體英領印度六割五步、北米合衆國二割五步、支那五步、埃及三步、佛領印度一步、朝鮮一步の割合なり

▲麻類 明治四十四年迄は輸移入額二千三百萬斤三百五十萬圓に過ぎざりしが大正元年以降三年間各三千二百萬斤七百萬圓に達せり、其の輸入國別は比律賓六割、支那二割五步英領印度一割其の他五步にして臺灣朝鮮より多少の移入を見るも揭記の價値なし

▲獸皮 輸入獸皮の種類は牛皮及び水牛、鹿皮、屑皮其の他にして一ケ年に輸移入額四十四年は二百萬圓大正元年は約三百萬圓二年及び三年は四百萬圓なりしが大正四年には激增して一千百萬圓に達せり、蓋し其の輸移入額の增加は主として牛皮及び水牛皮の增加にして戰時に際し露國軍需品の注文を受けたるに依り其の原料を求めたるなり、本品の內毛皮は約五萬圓にして支那及び浦鹽方面より鹿皮約十五萬圓にして支那及び佛領印度より屑皮は約十萬圓濠洲より其の他約二十萬圓は主として支那より輸入す、牛皮及び水牛皮の輸移入額は大正元年八百四十萬斤二百六十萬圓大正二年九百萬斤三百七十萬圓大正三年略前年に等しく大正四年は一千二百萬斤一千萬圓にして逐年增加せり、其の內四割は朝鮮產に依り三割は支那產二割は北米合衆國產他の一割は濠洲英國等より輸入せしが大正四年に於て米國英國濠洲產は多く歐洲に仕向けらるゝに至りたるを以て支那產之に代ることゝなれり

◎鮮銀浦鹽營業成績

朝鮮銀行浦鹽及び其の附近に於ける九月分營業成績一般を聞くに輸出貿易は前月と同じく時節柄何等見るべきものなかりしも續いて輸入貿易は可なり奧地行貨車配給不足の爲め停滯貨物は益增加し既に三十萬噸を超へ加ふるに露國側銀行は資金固定の爲餘程確實なる取引先にして確實なる擔保品にあらざれば絕對に融通せず荷證券に對する貸付を取扱はず只鐵道貨物引換證に對し荷爲替を取組むに止まるを以て日露兩國商人共商品の受渡し意の如くならず爲に金繰り餘程困難を極めたりと雖も時恰も物仕入れ時期に當りしを以て前月に比し多大の減少を示すに至らざりき之に當行に於ける被仕向手形の額に就て見るも被仕向高總額は前月の七十五萬圓に比し七十一萬圓餘を示せり然り而して斯の如く荷物受渡困難なるが故に爲替の拂込み極めて不良にして從つて取立手形の月末殘存高は前月末の四十八萬圓に比し實に七十萬圓を算するに至れり金融は依然硬塞の裡に越月するに至れり因みに本月中當行爲替買高は實に二百三十八萬五千七百五十留賣百十二萬二千百七十留に達せり爲替相場亦前報の如く米國資本家の露國內債買入れの爲露國爲替を買入れたると羅馬尼の協商國側加盟とに因り英米市場に於ける露國爲替暴落の影響を受け當方相場の如き二日に入り遂に賣百六十六留半と引下げ哈爾賓正金は百六十二留を公表するに至れり然れども其後米國側の買止と帝國銀行の發行權擴張二十億留確定等何れも露貨の弱材料を供給せしが爲月央に至り爲替相場は漸騰の勢を呈し遂に百六十八留となりしも下旬に入り又復亞米利加方面の買に依り下落し哈爾賓正金百六十五留當行は百六十五留半を公表し月初に於ける如き大暴落を演せざるやを患ひ各行共極力賣爲替取入れに努力せしが幾何もなく直ちに各市場共露貨軟弱を報せしかば月末に至り哈爾賓正金及び當行共に百六十八留に引返して越月せり云々

◎取引所の設置許否如何

有力なる內地の仲買人及び朝鮮企業會社高橋事務等二十五名發起となり京城に米棉取引所を設置す可く種々奔走中なる旨は本紙既報の如し、鮮內の取引所は目下仁川に一箇を存するのみにて之れ迄釜山其の他の都市に設置の議ありしも認可を得ず其の筋に於ても取引所設置に伴ふ都度沙汰止みとなり來れる次第なるが、當局に於ては從來の弊害を恐れ、其の設置は或は必要ならむも其の弊害を忍びて迄朝鮮のみの公定相場を立つる必要ありや、又た是非とも設置の要あらば之れ迄の方法に依らず弊害醸成の憂なき新方法を工夫すること肝要なる可しとなし、之れ等の點に就き尙ほ研究中にて、それが解決を見ざる限り鮮內には理事廳時代に認可を與へし仁川米豆取引所一個に止め、新規設置の認可申請書に對しては絕對に詮議せざる意嚮なりとの事なれば今回の申請が萬一認可の運びを見るとするも其れ迄には相當の日子を要するなる可し

◎日滿運輸成績

九月中に於ける日滿連絡運輸狀態を見るに全輸送數量二萬三千七百六十八噸(鐵道用石炭九千四百十六噸及び標桁二百五十四噸を除く)にして之を南北行に分ち前年同期に比較するときは院局線發數量九千四百二十三噸は二千九百四十九噸南滿東淸線發數量一萬四千三百四十五噸は六千三百七十九噸の增加を示せり今發著線別の輸送數量を見るに次の如し

			前年同月に比し
北行	院線發南滿線著	二、四三二噸	五四五增
	同東淸線著	一、二六三	五八七同
	計	三、六九五	一、一三二同
	局線發南滿線著	五、〇二二	一、六五五同
	同東淸線著	七〇六	一六二同
	計	五、七二八	一、八一七同
	北行計	九、四二三	二、九四九同
南行	南滿線發院線著	三八一	二三六同
	東淸線發院線著	〇	三減
	計	三八一	二三三增
	南滿線發局線著	一三、九六四	六、一四五同
	東淸線發局線著	〇	
	計	一三、九六四	六、一四五同
	南行計	一四、三四五	六、三七九同
	總計	二三、七六八	九、三二八同

右貨物の輸送狀況を仔細に觀察すれば

▲院線發南滿東淸線著 南滿線著數量二千四百三十二噸東淸線著數量一千二百六十三噸計三千六百九十五噸にして前年同月に比較するときは南滿線著五百四十五噸東淸線著五百八十七噸の增加を示せり前年同月は排貨熱全く終熄を告げ滿洲各地共一齊に需要を喚起し久しく沈滯に打續ける市面は遂に反動的活況を呈し輸送殷盛也し月なるに本月は之に比較し更に一段の增加を示せり之が增加の主因と見るべきものは(一)滿洲に於ける農作物豐饒にして相應收穫の見込みなること(二)特產物の大宗たる大豆の市價が別段低落を見ず高氣配を維持し自然農民の購買力を昂めたること(三)高價を維持し居る銀貨の下落を見込みての思惑買入氣は一般に振興を見たること(四)露國征徵退監還をなしたる事等亦其副因をなし東淸線著貨物においては露國に於ける諸外國より輸入品杜絕の爲め本邦品の供給を仰ぐ外なきに至りたる爲めにして南滿東淸線著品種の主なるものを擧ぐれば綿布千八百八十七噸綿糸四百七十三噸同製品四百四十八噸雜魚八十五噸白米四十五噸革及製品三十六噸紙類三十二噸洋蠟六千三噸等にして最多數を占むる綿布の之が仕出地は大阪一千五百十一噸を第一とし阿港百十七噸其他四日市、神戶、名古屋等にして何れも五十噸內外なりとす仕向地は哈爾賓五百四十三噸長春五百三十九噸等なり

▲局線發南滿東淸線著 主なる輸送品類を擧ぐれば米一千四百五十五噸鑛石二千九百九噸木葉八十六噸木材六百七十九噸雜穀五十三噸果物三十二噸卷煙五十一噸藥品藥材六十一噸石油三十一噸金屬材料十七噸紙類十五噸鹽干魚九噸等なり

▲南滿東淸線發院線著 東淸線發貨物は依然不振の狀態にあり又南滿線發貨物は本春以來豆粕輸送の盛況なりし當時に比し極めて寂寥の感ありと雖も內地は麥作其他の施肥期に近づき又滿洲各地は追々新穀出廻りを見るに至り豆粕に對する內地より注文漸々入込みたる模樣なれば輸出界も漸く閑散を破り繁忙期に入らんとするもの如し又本年は北滿の作柄は南滿に比して一層豐收見込にして東淸線昨今の輸送狀態にては浦鹽輸出の便を缺ぐが故勢ひ南下するもの尠からずとの豫想なれば今後の輸送は相應の活躍を見るに至らんか輸送品種の主なるものは豆粕二百九十二噸大豆三十二噸小豆二十二噸柞蠶糸一噸等なりとす

▲南滿東淸線發局線著 東淸線發貨物は昨年同樣皆無にして南滿線發貨物の主なるものを擧ぐれば石炭一萬六百七十九噸木材二千四十二噸雜貨三百七十六噸骸炭三百噸氷百噸雜穀百噸大豆六十二噸金屬器三十噸麴三十五噸等なり要之院線發貨物は前段述べたる如く異常の活況を呈し院線著貨物も亦豐て活躍の時期に入らんも豆粕需要期並に農產物の出廻關係上前月同樣不振に終れり次に局線發著貨物は順調なる成績を示し何れも前年に對比し相應の增加を擧げたり

◎有賀博士出發

入京中なりし支那總統府政治顧問法學博士有賀長雄氏夫妻は四日午後九時四十分南大門驛發列車にて北京に向へり

人事消息

▲竹內明太郎氏(代議士) 四日夜入京朝鮮ホテルへ
▲原修次郎氏(代議士) 同上巴城館へ
▲賀田金三郎氏(貿易商) 同上

南言北語

ヒンデンブルグが三十年間攻擊しても西部戰線は破れぬ來年あたり決定的戰爭があるのだらうと吹いた事は既に御紹介に及んで置いた▲と同時に如何な獨逸人でも誰れか反駁をやるのが飛び出すのだらう獨逸國民だつて其樣な馬鹿許りの寄り合ではあるまいと見て居たら▲果してウオルヴアルツが雖鬼になつて出血多量で氣息奄々たる歐洲は一日も早く平和を熱望して居る▲獨逸國民はヒンデンブルグの言に對して失望した▲來年決定的會戰があるなんて空漠な事で而も悲觀論だ▲此の樣な事を云ふのは寧ろ國民に對して不愉快な印象を與へる許りだ▲來年が來たら敵が疲弊し盡すなんて馬鹿々々しいと怒鳴つて居る▲成る程御最千萬で其れは敵が疲弊し盡すよりは御自分の獨逸がお先に疲弊し盡すからマア好い▲サウ紙とヒンデンとの喧嘩なら幾等やつても好いが▲現戰爭が無期限に永續するに於ては歐洲は死る▲其ふなると米國に於ては有色人種が終に大陸の世嗣人となる▲何に最う一遍云つて貰ひたいイヤ其樣な御心配は御無用頭が禿げますよ▲ナアニ獨逸さへ早く叩き付けて仕舞へば世界は平和なものだ手數をかけず早く片付いて貰ひたいものだね▲降て湧いた天津老西開事件は收まり相で却々收まらぬ▲政府が收つた處で人民が收まらぬ夏外交次長などは危ない處で命丈け漸く持ち逃げをして▲之れぢあ到底駄目だ最う辭職より他はないとか云つて居る相な▲始末が面倒になると他人にはねかけて逃げるなんて何處にも能くあるものと見ねる

朝鮮と寺と教會

○妙心寺提唱 五日の無盡燈論提唱は從來……

○京城基督教會 ……

○龍山日本基督教會 ……

文藝倶樂部

益々光彩を發耀せる十一月號 定價二十八錢 郵稅二錢五厘

▼簡易保險は什麼具合…烏紅 ▼女の生活と裏面…華村 ▼酉の市今昔掃込々々…吉丁宇 ▼自働車の運轉手…作兵衛 ▼私娼救濟ギゼン事業…館ン坊

小說 通路…泉鏡花 針供養…渡邊霞亭 毒紅…尾島菊子

▼誌上の連鎖劇「秋櫻」…秋湖 ▼演藝當座帳…鬼太郎 ▼木挽町の大芝居…曾角磯王 ▼芝居あるき…忠案外史 ▼新落語かんかん電車…俠茶之助

▣裁判綺談 重複恨酸漿…迎月道人 ▼カフエーの卓…鳳仙 ▼內職ないしよ話…無聊庵 ▼文展のぞき…呼潮 ▣まぼろしの女(探偵小說)…中山似郎 ▣明治文學 光村はん…情海隱史 ▣殺人談 延命院(市村座當り)…鈴木春浦 ▣實說 備前騷動…江見水蔭 ▼大阪の張店廢止…紫影 ▼淺漬のかくや…みはる ▼東西四人落語家…飛田廓外 ▣新講談 與次郎殺し…悟道軒圓玉

東京本町 博文館 振替二四〇番

婦女界十一月號

境遇と修養…棚橋絢子 順境に生れて一時逆境に陥り、而して遂に今日の境遇を造られた棚橋先生の七十八年間の御經驗より得られたる大なる教訓をお讀み下さい。

健康と修養…鳩山春子 古今幾多の實例を擧げて健康に關する修養法を說ける十六頁に亘る大文字。世の健康を欲する人々は、是非共本文を御精讀下さい。

精神病の夫を看護した經驗 夫が遂に精神病となりし經路と、若き妻の眞實なる看護振りとを敍述せるもの、眞に紅涙の物語なり。

酷いヒステリーの姑に事へた六年間 ヒステリーは實に恐るべく且つ憎むべき病氣です。之を看護した六年間の苦心の程が察せられます。

我家に於ける女中の使ひ方…吉岡夫人
滋養の多い甘藷の研究…澤村博士
丹毒症の豫防と手當…野谷學士
子供を丈夫に育てる秘訣…都河主幹

主婦の讀物
▲絹物の洗ひ方と仕上の仕方…家山衛子 ▲誰にも出來る小兒洋服の作り方…宮崎榮子 ▲安價で便利なズボン下の作り方…清 ▲最新流行の大正式挿花法…岡田廣山 ▲十一月の家庭園藝…千 ▲婦人修養大會の記と其會計報告…北原生 ▲子供の髮と皮膚を美しくする法…ますみ ▲子供の喜ぶ玩具のいろいろ…龜井まさ子 ▲魚類を使はずに出來る客膳…八重子 ▲蜜柑栽培年收千圓の家計…

挿繪小說 荒浪 千葉秀村作 石井朋昌畫
家庭講談 北政所 細川風谷
家庭小說 憂き身 柳川春葉

本日出來 一冊金十七錢 送料一錢五厘 半年前金一圓十三錢 一年二圓十五錢 東京牛込加賀町 婦女界社 振替二〇二八三

●質屋開店御披露

謹啓各位益々御清榮の段奉賀候扨て弊店儀今般京城明治町二丁目(舊曙町)へ新築中の營業場所今般全部落成仕本月二日より開店致候に付ては尙今後共一層御客樣本意にて親切確實に營業可仕此段御披露申上候 敬白

尙完全なる倉庫の設備致候に就ては諸物品の保存は勿論火防盜難豫防上至極御安全に候

京城明治町二丁目廿二番(舊曙町) 大塚質店 電話一八四九番
舊龍山元町二丁目(舊老松町) 大塚質店 電話五六五番

○開教院(本町三)五日午前十時より…校あり田中、吉田兩氏の講話あり翌日午後七時より日曜教會、田中氏の講話あり
○日本基督教會(長谷川町)五日午前九時より日曜學校、同十時より井口牧師の『十字架の恩寵』同午後七時より井口牧師の『救贖の道』
…日午後二時より…說教『主よ我なるか』…牧師、午後七時三十分…傳道說教(旭町二丁目)…

●潛水器に身を固めつゝ
小春風の一日仁川の海底を探るの記

仁川水産業者なるM氏の肝煎で潛水器を借りる事の出來た僕は小春風の一日午前九時頃

―干潮と追手に―

乘じて船を南の方鳥子島に向けて駛らせた、船中には助さんと言つて天日と潮風に照らした體を鐵の樣で鍛き固めた樣な壯獸的の潛水夫と、虎髭黑面、どつちから見ても仁王樣然たる金さんと、モンキーに酷似た吉さんの三人が膃毛を潮風に吹かせて胡坐を掻いて居り其の一方にはポンプや三目の化物の樣な兜や、揮發油臭い潛水服や

―長い護謨管や―

ドナどが雜然として並べて有るので七尺内外の小さい舟の中は坐る所も無い程混雜して居る、それでも舟は紺碧な海に洗ひ淨められた樣な秋風を蒲帆に孕み乍ら、浩蕩たる波の上を辷つて行くので、舟足は矢の如く挾くて、瞬く間に月尾を右手に眺め八尾を左に過ぎて二三時間の後には紫煙漂渺たりし仁川市街を眼界から逸し

―尚も島を縫ひ―

波を越にて午後二時頃には港口に出た、流石に港口は内港とは違つて、不斷に不可測の超絶的魔力を秘めた潮が彭湃として寄せ來るので舟は木の葉の樣に翻弄されて恐ろしくも氣味惡くなつて來た、助さんは動圓木にでも乘つて居る時の樣な心持ちでウトリ〳〵して居たが僕が鷄瑠璃を熔かした樣な

―濤の上に艫が―

反り上つたり、蒼黑色の濤の底に突下つたりする毎にハラ〳〵して居るのを見て『波を見て怖がつたり胸を惡くする樣ぢやあとても百二三十斤もある潛水服を著て海の中へ潛れね』と言つてワツハツハツ……と高らかに笑つた、助さんの話に依ると潛水夫でも慣れない裏は隨分苦勞する者で身體が頑丈で無いと全然勉まる者ではない相だ、身には袋の如き潛水服を纏ひ足には

―廿五六斤の靴―

を穿き頭には十五六斤の兜を戴き、前後にかけて五十斤餘の鉛の重りをつけた時は步む事は愚か身を以て支へる事も出來ない、それを扶けて梯子に下ろして徐々と海中に沈ませるのであるが、此の水中の梯子から離れる刹那新米の種は橫になる拍子に足の方に空氣が入つて宙返りをしたり、急に下りて耳や

―眼や鼻に激痛―

を覺えたり、鼻血が出たり、嘔吐たりする、更に甚しいのになるとゲレツプから空氣を出し過ぎた結果水の壓力で潛水服に搾められて血液の循環を止められ全身痺れを起して死んで了つたり、半身不隨、双脚不隨等になる者が頗る多いとの事である、以上の話の樣子では潛水夫なる者は吾人が想像するが如く紅蝶紫とりどりの海の

―藻茂る潮陰や―

鯛や鰈の遊ぶ海底で龍宮の乙姫樣の夢を見たり、貝を拾つて喜ぶ樣な呑氣な稼業で無て至極險呑な職務である事が想像し得られる(仁川支局)―(續く)

●賑ふ仁川
仁川神社祭典 神輿渡御の式

立儲の御盛儀奉祝に亞いで仁川神社例祭を迎へたる市中は數日來より奉祝及び祭典の準備に忙殺されつゝ有りしが四日は公式祭日とて市内は奉祝の高張大提灯、翩飜たる彩旗、紅白の幔幕等

▲街は賑はん 許りに裝飾されたり市内官公立學校にては午前九時生徒一同を講堂に集め大神宮祭に關する話をなしたる上尋常高等小學校普通學校女子普通學校女學校等の順序にて職員生徒數千名仁川神社なる前に於て參拜をなしたり續て仁川神社にては公式祭を執行し終つて渡御の式に移りたるが渡御の御道筋は既報の如く宮町本通りより支那町境より港町に入り松阪町電燈會社を上に廻り花房町

▲御旅所到著 次に支那町を經て仲町新町を通り小學校前より敷島町へ直線に進行し宅合名會社構内なる御休憩所に入り前路を通り寺町を練つて還幸ありたり

◇特等賞を得た『富士の曙』
仁川菊花品評會―山菊流行は昨年から

仁川菊花品評會に於て特等賞を得たる山菊の『富士の曙』の出品者小笠原君松君曰く

◇仁川に於ける山菊の流行は昨年の秋で、出井、中井の兩氏が京都の岡山公園の某家で懸崖作りを見て來て大いに仁川愛菊家に試作を勸奬したのが流行の基となつたのであります私も昨年三鉢栽培したのが始めて早速京城の品評會に出品した處幸ひに一等賞を得、又今回も特等賞を得たのは望外の仕合せであります

◇培養法なんかは未だ充分研究して居りませんが私の短い研究に依りますと普通大輪菊の多輪仕立をするのと同樣に肥料は温室から出して外氣に慣れた頃から施し漸く蕾を保つて施肥の度を增し五月末頃より隔日位に稀薄の油粕を施すのが宜い樣であります

◇蕾を摘下させるのは一尺以上伸長した後で極芽の摘心は最初三寸位ひ延びてから行ひ爾後發芽に應じて摘捨て致します◇培養土は稍々輕く施水は普通菊より以上吸收しますから乾濕の度に最も注意を注がねばならず殊に八九月中に午後は絶體に日光を避けねばなりません

◇山菊は一名文人菊とも申しまして十三年前愛知縣下で大流行を極めたのが今は京都で流行して居ります作り方は成る可く大形な鉢を選ぶのでありますから少くも五尺以上でないと流れの作り方ではありません

●盛大なる長春の奉祝

三日は近來稀らしき好天氣、長春にては立太子式奉祝を兼ね長春神社の祭典を行ひたり午前七時より八時迄の間に領事館に於て官民の拜賀式同八時三十分より遙拜式を行ひ萬歳を三唱せり之より市民各團體の趣向を凝らしたる花車榜神輿等の出物あり午後四時より長春驛に於て官民合同の祝賀會あり來會者數百名會長山之内領事其の他團體の重なる官民の祝辭あり終りて宴會に移りたるが此の間市内各料理店の紅裙全部酒間を斡旋し近年になき盛會なりき宴終つて提灯行列に移り各團體の趣向を凝せる提灯花車等は音樂隊を先頭に市内を練り廻り最後領事館に於て萬歳を三唱し終つて隨意解散せり市中は賑ひを極め料亭の如きは何れも大繁昌なりき(長春特電)

●長春神社落成
崇嚴なる鎭座祭

此の程竣工を告げたる長春神社は立太子祝日を記念として三日正午より崇嚴なる神靈鎭座祭を擧行したり參列委員は御大典記念會長山内領事を初め係員百五六十名にして軍隊學校警務署郵便局員等の團體及び官民數百名參列委員長委員は玉串を奉獻し九餠、御神酒を拜供し午後三時式訖りて退場し其れより種々の餘興に移りしが長春開闢以來の大祭典なりき(長春特電)

●馬五十頭海上に漂流す

濟州島新左面成德里金萬純は所有の神通丸に馬五十頭を積込み本月一日全南珍島郡波亭に向け航行中風波の爲め難船し船長金尹平外六名は辛くも救助されたるが船體及び馬匹は悉く海上を漂流しつゝ溺死を遂げたり

菊の香草紙
京城での横綱

◇昌德宮の菊は今年から植田庄太郎氏が丹精して培り非常に美事な成績を擧げた◇鉢は大培り三百、一輪一挿千殆んど培養室の庭園いつぱいの美しさを見せたものから花は開きかけたものから順次李王殿下の御殿へ送り中にも四斗樽大の大培り花は昔仁政殿の廊下にならべられるとのこと◇次に殿下から各貴族に下賜される鉢も尠からず『モゾ開いた』だけは皆御殿へ納めました』と云へど植物園の花壇にはまだ澤山の逸物がある◇中にも眞白の『銀河の流れ』は直徑三尺ばかりの大鉢に培られ一本の根元から六十餘の枝に開いて鉢山盛りの美觀を呈して居る◇種は主に京都の中山常三郎氏から買ひ

昨年の新種には慶賀、萬歳、日進等六十餘種を植ゑつけた◇先づ鉢數と花の美しさに於ては此所が京城中での横綱であらう

●秋の日浴びて
朝鮮短歌會(第四回) 樂しき午後の清興

京城日報歌壇同人の第四回朝鮮短歌會は三日午後一時から光化門内明月館三階食堂に於て開催せられた純白のカーテンを透して淸らかなる秋の日は部室一杯に耀く中に若い歌人だちが花環の如き美しい團居を作つて歌がたりに時を移した第四回の短歌會は楚杞去つて後、始めての會合にて時日も短かく投稿も少かりしが歌は何れも力ある心の響きを傳たるものの多く集會の人々も第一回第二回に比して多人數にて豫想外の盛會であつた殊に閨秀作家として知られたる高橋、久保、佐々木の諸孃も來會せられたるは優しき會合に一きは美しき色彩を添へた、當選歌及び投稿短歌全部に對し逐次合評をした後、茶話會を開き各自短歌に付いての意見を交換し午後四時三十分閉會す、猶小津谷露峰君は幹事として此の會の最初より終りまで一方ならざる斡旋をされた、當日の出席者は角田ひろし、難波英夫、藤村幻花、篠崎潮路、本間素月、石森胡蝶、寺師方義、勝村長城、高橋業子、久保操、佐々木抽子、小谷鐵鮮、高須賀歌の諸子であつた互選の短歌は日報歌壇及び朝鮮公論、朝鮮及び滿洲誌上に發表する

●消防組秋季點檢

五日午前十時龍山練兵場に於て京城龍山、新龍山消防組秋季點檢を擧行し終つて組員競技運動會を開催す可し

●武德館劍道大會

黄金町二丁目陣之内氏の武德館にては五日(日曜)の午前八時より四週年記念武德祭執行續いて劍道大會擧行の筈にて一般の參觀隨意なりと

●井上孝哉氏送別

東拓理事井上孝哉氏は近々辭表聽許せられ内地に歸る事となりたるを以て岐阜縣人會にては同氏の爲め六日午後五時より京城ホテルにて送別會を開く由なるが會費は會員五十錢會員外の同縣人有志は二圓なりと

●誓文拂聯合賣出し

京城龍山に於ける呉服同業者十九商店は五日より誓文拂聯合大賣出しをなす由なるが各店共今年流行の新柄澤山著荷の上顧客に對して添物をなすと

●奇石療法

昨秋野田大塊翁の病氣が奇石療法にて…と推賞し…酒井氏の奇石療法は…刺にて…等に効能顯著なる由療法はたゞ石にて…のみなりと

東西合併大相撲
△四日目勝負
四日午後八時著電(○印は東京方)

勝 負 勝 負

○[illegible]柳 たて 海山 ○清瀨川 たふし 五十嵐
朝日山 したて 上州山 朝日嶽 預 一港
小若島 よりきり ○成瀨山 ○駒泉 はたき 鳳車
小綠 係 ○神錦 ○大門岩 すくひ 駒ケ嶽
荒玉 ちやり ○鳴門岩 ○敷島 すかし 龜鶴山
朝日潟 だしなげ ○朝綠 ○國見崎 よりきり 朝山
○龍ケ崎 ふみきり 玉櫻 ○大嵐 こみ 紅葉川
土州山 かへし ○時ケ嶽 ○黑瀨川 おし 大門
有若 わたし ○岩木山 ○栃木山 つりだし 荒岩
○對馬洋 つりだし 西の森 綾川 あびせ 宮木山
源氏山 よりきり 加古川
千舟川 くびなげ ○伊勢濱
朝日山 うはてなげ ○宇都宮
○西の海 こてなげ 時の矢

大錦と松の音

右の内▼土州山に時ケ嶽は右四ツ時の掬ひ投げを打つを切返して土州の勝▼黑瀨川に大門は大烈しく突張るを黑瀨掬ひて渡り合ふ内反對に攻勢を執りて突き進み押し倒して黑瀨の勝▼有若に岩木山は岩木敵の突き出す右手を手繰るを有そのまゝ預け左手を持つて渡し込んでの勝は旨く註文を附けたり▼栃木山に荒岩は栃木左矢筈にて押進むを荒引外して左四ツに渡れば然らばと輕な吊り出して栃木の勝▼綾川に宮木山は左四ツ宮木再三蹴返しを見せ綾の寄りバナを下手投げに行しが綾體を突きつけて浴びせしため宮木潰れて膝をつく

▼源氏山に加古川

は源氏左を差して一氣に寄り進み加古が右手に源氏の差手を推いて掛け投げを打たんとするを體を突きつけ寄り切つて源氏の勝

▼伊勢の濱に千舟川

は伊勢腰痛みを押し注射を施して出場せる勇氣感ずべく立ち上がるや伊勢の出バナ千舟右手を伊勢の首に卷いて首投げを打ちて勝

▼宇都宮に朝日山

は突き合ひ左四ツにて鳥渡突き合ひ宇都の下手投を朝日上手投に打ち返して朝日の勝▼西の海に時の矢は時の右差を西左手に卷き込み小手投にて西の勝

△中入後

大達●大の川は鳥渡突き合ひ敵の引き落し肩透かしを恐れて突進せざる隙を得たりと双筈にて押切り大の勝▼日出山に釋迦ケ嶽は鳥渡突き合ひ左四ツとなりて釋迦は寄らんとするをハナを肩透しにて日出の勝▼大泉に九州山は泉飛び込んで右を差し劍の峰に寄るを九殘しつゝ強引の小手投げに振り飛ばし九の勝▼小常陸に二瀨川は烈しく突き合ひ小常勢ひ込んで寄る二瀨の左手を取つてトツタリを打せしが極まつて勝

▼大錦に松の音

は烈しく突き合ひ松押し進んで良き所ありしが錦踐して左四ツとなるや錦強引に持ち出し錦の勝にて五時打出したり

△中入後

小常陸 二瀨川
日出山 釋迦嶽 九州山 大泉
宮城山 黑獄 大の川 大達
常の花 熊ケ嶽 逆鉾 大砲

▲むらく來る

東京落語三遊派では若手チヤキ〳〵で人氣者の朝寢坊むらく、不圖した事から師匠の橘之助と不和になつて旅先から朝寢坊むらくの名前を返上に及び本姓の橋本に故圓朝の俳號だつた川柳を取りはし本川柳と名乘つて内地の各地方を巡業中、今度熊本の大和座を打揚げ次第京城に乘り込んで浪花館に開演する事となつた、むらくといふ名は可なり通つてゐるが然し本川柳では何んだか獅樂廻しみたいだ、しかし先年來た小圓朝、金馬、馬生などと比べてその實力のある事は確かである、久しく色物の掛からなかつた京城では嘸度喝采されるだらう

▲雷右衛門開演

浪花節東洋軒雷右衛門は三年振りで來鮮、目下釜山興行中だが五日夜京城に乘り込み六日から壽館に開演する筈にて久々にて得意の美音を聽かせると

▲獨特無比浪花節
東洋軒 雷右衛門
▲十一月六日より 壽館

公告
京城地方法院
一、京城府南大門通五丁目拾六番地
木造瓦葺平家建本家壹棟
此建坪拾九坪七合七勺
最低競賣價額金七拾九圓也
競賣申立人 朝鮮實業株式會社
代理人大久保雅彦
右不動産所有者 井上
右十一月十五日午前十時競賣
▲前號拾壹月四日發行廣告中競賣申立人朝鮮實業株式會社不動産所有者大久保雅彦トアルハ右記ノ誤リニ附訂正ス 京城日報社廣告係
左ノ不動産ヲ左ノ日時ニ競賣ニ付ス入札保證金ハ申出額ノ十分ノ一トス

轉居 黄金町三丁目二九一番 上田元三

今が絶好の放資時
土地熱來る
市内土地の即賣會
▽日時 十一月五日午前十時
▽場所 大和町二丁目八五番地長島邑次郎氏方
▽方法 成行競爭入札
▽保證 入札保證金五拾圓現金又は小切手
▽取引 (即時返戻)五日以内に一割、殘金は本月末日以内登記料は買主負擔
京城太平通二丁目七八番地
多田不動産信託所
京城不動産即賣會(電話二二一番)
(一號)京城大和町二丁目八十五番地(李王職官舍前)五百十一坪
●同地上一、木造瓦葺平家一棟 此建坪三十七坪七合四勺 外水道、堀井戸、瓦斯電燈、浴場、疊建具附庭園樹木現存の儘
●田(二號)同十五番地(第一銀行社宅前)(住宅向位)二百九十四坪
●田(三號)同百六番地(遞信局官舍道、橋の手前左側角)(住宅向位)三百十四坪
●畓 百二十八坪
●田(四號)同三丁目四十番地(老人亭川の左岸、遞信局官舍西側高地)
●田(五號)本町四丁目七十八番地(本町通約十間南入)(住宅向位)二百七十六坪
●田(六號)大和町三丁目十七番地(梅之家東隣四ツ角)(住宅商店向位)百六十三坪
●田(七號)同十八番地(同上道の東南の角屋敷)(住宅商店向位)六百二十五坪
以上七筆(地圖無料進呈仕候)

黄金の浪放資は今!!
來れ本日の不動産即賣會

朝鮮總督府遞信局
競爭入札 一、デルビル電話機外拾參點
詳細ハ十一月四日本府官報ニ在リ

移轉廣告
今般京城府若草町新道に移轉仕候間乍略儀以紙上御通知申上候
京城若草町四十一番地
内科 小兒科 婦人科 今村醫院
電話一八三一番
診察時間(正午より夜九時迄)

日韓書房
新版報告
三杉野耕三郎編 市町村名辭典 定價一圓 送料十錢
羽太鋭治著 女の肉的研究 定價九十五錢 送料十錢
長講談編 羽柴筑前守 定價三十錢 送料八錢
岡本米藏著 牛 第四十二版 定價一圓 送料十二錢
同著 修學行商日記 定價三十五錢 送料六錢
京城本町二丁目 振替一四四番 電話一五一二番

平壤大和町自動車商會隣(電話六一一)
齒科診療 岡齒科醫院
入院隨意
院長 齒科醫 岡友三郎

破天荒の新直段
驚き賜ふな今日より
定價の五割引で買へる
ニッポノホン鷲印兩面盤
斯界のレコードを破つた新直段
兩面盤壹枚定價金壹圓五拾錢也のものを金七拾五錢に片面盤壹枚定價金壹圓也のものを金五拾錢に買へます
十一月新音譜が出ました最寄の特約販賣店へ御注文被下度特に鷲印と御指定を乞ふ
目錄贈呈仕候 運賃拔商店代引受申候
NIPPONOPHONE
朝鮮總販賣元 京城本町二丁目 株式會社日本蓄音器商會 電話一二八三 振替京城六八四

京城電氣株式會社 朝鮮瓦斯電氣株式會社 電氣機金物商
巴商行 龍山漢江通八番地(電話四二四番) 樋口米太郎
右兩社製品 コールター一手販賣
同 京城黄金町二丁目(電話一四二五番) 佐久良座横
行鑄物部
大阪久保田鐵工所代理
東京神奈川電氣株式會社代理
同 行電機部
石材(花崗石)販賣弊行持山(往十里)
今般釜山朝鮮瓦斯電氣株式會社製品コールター一手販賣仕候に付引續き御購求相成度此段御願上候

値上廣告
コークス壹噸に付壹圓値上
右十一月一日より前記之通り値上致候間以紙上謹告仕候
京城長谷川町五十八番地
京城電氣株式會社産出瓦斯コークス一手販賣所
コークス用器具販賣
南豐商會 電話一九二六番

日本一の強くて温かい鬼足袋
見て優美!!! 穿いて滿足
オニタビー
販賣御希望の方は御照會を乞ふ
見本一足金四拾貳錢(郵券不苦)
東京市日本橋區小傳馬町 寺田淳平商店
電話 浪花 二〇〇〇番 二〇〇一番 二〇〇四番(營業用) 下谷 九三番(工場用)
振替 東京 八三六七番

…ルハイザー博士は當地米國…宣教師の經營せる避病院、教會附屬…一名なるが先月に比して一千四十三人三千二百八十七名合計三千八百十…等なるが兩役内地人移住者續出す可…駐在所を設置し四日開所式を擧ぐる…出雇六百五十九吠…吠にして玄米の…は少數にして出…費用一千圓は役員各自分擔し寄附金募集を爲すことゝなりたりと…遣すべく決し右…

女鳩

渡邊默禪

「二五〇」下山の途

山形地方にはモッコと稱へる農具がある。普通の畚とは拵へ方が異つてゐて、山峽や溪間の凹凸の多い場所で物を搬ぶには、頗る便利に出來てゐる。獵場には此の畚を持つて來てあつたので、上に獸皮を二枚もかされて、蒲團の代りにし、子爵を臥かして置いて枕を高くあておひ、そして毛布と獸皮とで包んで出來合の擔架にした。それを舁ぐ者は前後に二人。手代りが十何人。鳩子と大野とは側について氷嚢の世話をしながら見戍つた。源作は一番後に殿して一行を監督しつゝ、小荷駄を運搬させた。又た生駒は自分から希望して跡に居殘り、十人ばかりの壯丁を指揮して小屋を取毀させ、午後から下山する手順だつた。

かくして出谷川上の根據地を後に出發したのが午前九時。登山當時の寡なしい勇氣から全く抜殻にされて了つた一行は、どの顏にも誰の眼にも言ひ知れぬ陰慘の翳が漂つてゐた。とりわけ朴訥一途の源作などは、流石に老の涙脆く、悄然として俯き勝に雪を被る足弱の鳩子を見ると、堪へ切れぬやうにいぢらしい思が堰上げて來て、しば／＼手拭を目にあてゝは苦しげな咳をした。

頓て七町ばかりも來て、これから龍が嶽の側面にかゝらうといふ時に擔架の側についてゐた大野はふと立停つて、後から來る源作を手招ぎせた。そして鳩子と二人をやゝ離れた岩陰に連れて行つて

『ちよつとお二人に相談があるですがね。如何でせう、お孃さん、貴女はみんなと御一緒に一足先にそろ〳〵とお出かけ下さいませんか。僕は二時間ばかりお暇を貰ひまして、つひ近所に一走り、見て來たい處があるんですが……そこで爺、お前も一緒につき合つて貰ひたいんだがね拔けられるだらうか』。

然う言つて二人の顏を見較べた。鳩子は訝しいといつた風に默つて返辭をしなかつた。と、源作は忽ち目を剝出すやうにして

『何處さ行くだつて？途方もねえ、何言つてんだんべ。ほだら此人は……大事な病人をお送り申す途中で、見物したい所があつから、お姫さま一人を突放して、俺と一緒に行つてけろ（呉れろ）ちう話があつか。不人情も時と場合によりけり。今はほだな（左樣な）馬鹿吐いてられた時ぢやなかんべ。第一こゝらに見るやうな場所がないだぞ。おらやんだい（俺は忌だ）。行つて見たけりや勝手にすればいゝづだな』。

一圖に憮然とした。大野は笑つて

『いや、見物に行くのではない。思ひ違ひをしてくれちやあ困る。行つて見ようといふのは子爵が負傷をされたその場所だのだ。念の爲めその實地を踏査して置きたいと思ふのだ。でないと東京へ歸つてから御親族や御友人に對して話が能きんし、何故現場を調べて來なかつたかといはれると、無責任の罪を負はなければならんからね』

源作にはまだ十分にその理由が呑込めないと見えて、口を尖らせて睨んだまゝでゐた。けれども鳩子の聰い心には逸くも大野の口裏にひそむ機微が見透されたので、成程といふやうに頷きながら

『私しも彌う思ひながら、言出しかねてゐた所でしたのよ。よござんす私しお附き申してゐますから、貴君行つてらしつて下さいな。御苦勞さでゐすけれども、どうぞ』

と言ふ詞に會心の歡びがほのめいてゐた。でも源作は

『ほれならもつと早く言つてければいゝのになア。又たお前さまが見なくなつて生駒の旦那が知つてござつたら澤山だんべに……』

『いや、是はお前にだけの話だが彼の男は全然信用が能きんのだ。能きない事情があるから、こつそり行つて見ようといふのではないか』

『む、む、ほうか（爾うか）』やつと輪廓だけの事情が分つたらしく『よかんべ、ほだら案内すんべちや』

直と話が極つた。一行の者に十分注意して下山するやう言含めてから二人は少しく跡へ引返して谷を横斷し、一直線に雪を渉つて絶壁の方へ向つた。

□烏兎子榮轉祝吟

烏兎大人の榮轉に際し諸家より寄せられたる祝吟を得たれば左に掲ぐ

○君來すは誰にか見せむ都路の　澁谷靜夫
紅葉の錦かさねの新衣　牧山玄濤
○秋晴や鳳德太守京に入る　輪子貢丘
○菊酒盛る、影のうつり
叙相見新らしき親しみ　阿部大痴
○秋晴の長安に入る道廣し　野田忠蘭
○南大門紅葉赤く君を待つ　林一象
○太守早くお出てと待つや暮の秋　野田大羽
○一足に飛ぶや長安霜氣百雁　上田俊人
○白鶴の都に飛ぶや醉渡し
○鶴開て人待つ宵や炭たす　曾我鴻子
○鶴開いて路路の人を待ち申す　山田俊平
○武者振りや木枯踏んで再ひたへ
○露菜して機關吏に眼に商し　羅原想雁
○宗匠を迎へて都窓に入る　山口卓天
○眼し置きし菊を都に送りけり　白井白居城
○山茶の側しらせて宮住居　成田香石

京日案内

普通　一回前金一番外六十錢　一回前金一號名一回五錢（一行十五字詰）
（市內役中止掲載中止の節は十日前に申込むこと）

◎寶家　土地共後來有望なる景福宮光化門側日本建二階家皮朝鮮家屋歸國に付格安讓渡す積善洞三〇秀鳥 637

◎寫眞○開業五周年紀念大割引の上活動寫眞入場券進呈○天長節より黃金町電話一四三四商等寫眞舘 616

◎讓店　櫻井町目扱の場所雜貨野菜店歸國に付居扱の儘五十圓以下讓る（姓名社ト）644

◎金融　月收の方に秘信用貸又は立替等御報伺上來影更佳本町電車終點花園町部大和屋 534

◎古本熱心高價買入◎是非御試買を乞◎電話二七八一番　▲御報参上▲本町四書肆群書堂 641

◎金融　官吏及商人の方信用貸大小にかゝはらず取扱極迅速本町二丁目五五壽町一丁目通り角柏屋 653

▼古本と古樂器は是非共信用出來る本町二●電二五二七●ツボヤ書店 591

記者及外交員採用希望者履歷書携參談あれ月收五十圓以上確實花園町一二二　中央金物新報支社 552

番外

鑛山測量立會代辨　鑛務一切　鑛山調査製圖鑑定確實迅速　忠州邑　竹內鑛務所 648

礦物定量分析　京城府太平通（朝鮮公論社左小路）電話一三四四番　坂元分析所 614

毛皮なめし並に仕立　鳥獸剝製調進販賣　京城本町三丁目電話二〇六五　時元商行 612

京城春川間毎日午前八時出發　京城春川間行自動車賃金片道四圓　南大門通一丁目電話二九番　主任金正濟　廣橋自動車 630

內地材製材乾燥付火第見積書送る　鑛山用ゆり鉢其他雜貨各種　京城黃金町三井物產前　家具木取は販賣注文應ず　木製材所 595

鑛物分析　京城錦路二ノ九　鑛山測量　金石商會（電話一八九九）603

新刊紹介

○十一月狂言に底から踊る立女形　前田昇
○菊咲て都に上る長者振　谷村團尙
○南山の錦に添ゆる錦かな　白水淡
○移されし木犀碑に匂ふかな　池田義明
○君來り都の菊は色を添へ　國分象太郎
○總督新に高麗の野更に秋明るし　國友尙謙
○菊に待つ都空高く晴れたり　秋元雄川
○出來秋を良二千石と別れけり　山口死象
○よき主人持ちて新酒に酔ひけり　青木紛軒
○烏兎大人の送別に曰く
うたへども人に別るゝそゞろ寒　烏兎

▲金星（十月號）須田工學博士の世界造船界革命期、杉法學士の靜國に於ける外國爲替動員、中谷日本染料社長の戰後の染料製造工業井上博士の産業興振策論等を初め評論に圖する諸篇の好文字多し（十九錢東京市麴町區有樂町一の三其社）

▲年中行事詳解永代農家暦　行事日誌農家行事、附農行事、副業行事の四段に配列し尚に農家の年中行事のみならず重要肥料成分々析表和歌俳句を配し各季節に關する社交上の注意なら加へたり（十子錢東京京橋區南傳馬町二有隣堂書店）

▲すぐにわかる麥作增收の話（農學士高橋隆郎著）農家經營叢書第四編にして近年麥作に五石六石の增收を得るに至りたる新發見の栽培法に就き之を科學的に研究して一般の應用に役ぜんとせるもの十八章に分ち麥の天性、肥料、土入法、病蟲害其他麥作上注意すべき事項を平易に記述せり（二十五錢東京市京橋區南傳馬町有隣堂）

恩給年金即時現金　恩給低利無保險並に勸業貯蓄債券買入　京城永樂町二丁目（金光敎北手）國江商會 643

角形石鹼元祖　浦本石鹼工場　京城府米倉町二八四番地　電話二二九四番　振替京城三一三九番 596

恩給年金月利壹分即金立替　利子前引せず確實掛引なし秘密嚴守　京城若草町通中央郵便ポスト前　西村商會 639

立替　月收の御方へ極秘に大口小口共信用便宜貸出し應御相談御報伺又御來談　大和町三ノ三二（柄澤前）起木屋 640

圍碁指南　本町一黑川牛肉店角入る　初段林秀石 642

有給外交員招聘　但舊官吏望む　永樂町二の七五京城十友合資會社內　福德生命保險會社 681

簞笥、鏡臺、家具、製作販賣　一御好調製可仕候（御七文字より）　京城本町四丁目（電車停留所右へ入る一丁）　津村簞笥店　電話二六七〇番

新刊書御案內

書名	著者	定價
謡曲大辭解全	木村、井上、本居共著	特二、八〇
泰西名著危險なる年齡	蘇武、岡田共譯	一、二〇
同印度文學史	矢崎美盛	二、五〇
市町村辭典	杉野耕三郎	一、〇〇
中等教科英和新辭典	佐久間信恭	特九〇
英和會話と手紙	マツリー、イーストレーキ	七〇
句評及俳話	內藤鳴雪武田鶯塘共著	七五
修學行商日記	岡本米藏	三五
帝國南進策	副島八十六	一、〇〇
人生の快樂	大內青巒	一、二〇
獨逸帝國の野心 大英國の危機	宮家壽男譯	七五
與樣園藝十二ケ月 上卷	千葉胤一	八五
柿本人麿	尾山篤二郎	六〇
小說鹿の子しぼり	北島春石	六〇
長篇講談羽柴筑前守	揚名舍桃李	三〇
必ず利くチラシの拵へ方	清水正己	八〇
大正年鑑東京遊學案內	帝國敎育會	五〇
最新かるた競技秘訣	關野朔月	三〇
新式園藝寶典第四	鈴木鶴次郎	六〇
朝鮮總督府巡査受驗提要	永野清	特四五

◎大正六年當用日誌懷中日記各種
澤山著荷致候

京城　本町一丁目　振替京城二一二　電話六八四番　二〇八　大阪屋號書店

學者の創製したる

美顏ユーマー

愛用者の寄書

（其一）

群馬　堀口みつ子

或る日お風呂に參りますと、雪樣が「ユーマーあなた御持ちにならないやうね、之れお使ひなさいな。」と申しました。私しは其時始めて美顏ユーマーと云ふものを使つて見たのでした。鏡の前に座つて白粉を附けて見ました時、まあ!!と私しは思はず微笑みました。其れも其筈、性來白粉受けの悪かつた私しに美しい〳〵化粧が出來たのですもの、其時の氣持のよかつた事今でも忘れません。白粉の溶水としてよい品は此の外に經驗がないのです。其上外出の折には香水の代用ともなります。

2576.156.11

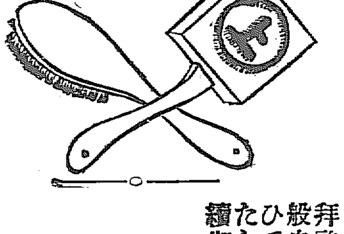
嵯峨野

大阪　桃谷順天館　東京

營業品目

罐詰　乾物　海産物　雜穀　清酒　銘茶
漆器　家具　文具　荒物　履物
金物　農具　石炭　石油　陶器　磁器
洗濯石鹼　洋釜　日本釜　京城井　サバリ灯　提灯
蒲團綿　中入綿　小袖綿　鐵火鉢　箱火鉢　飯ビツ

仁川新町　津田兄弟屋本店
仁川宮町　津田兄弟屋支店
京城本町　津田兄弟屋支店
電話七六二番　振替口座京城三八六番



拜啓秋高氣澄の候各位益御清祥奉賀候弊商會今般自作自給充實の一端として總て朝鮮産の原料を用ひてブラシ製造業を開始致し以て聊か家庭工業の一助たらしめ優良の製品を低廉の價額にて提供可致候間陸續御用命被仰付度御披露旁伏而奉願上候　敬具

商標 B.T

東洋ブラシ商會

工場　京城府貞洞百五拾參番　電話二三八一番　北村皮革直輸店
販賣部　電話一八四六番　太田屋皮革店　電話二三七一番

市況　下關期米特會　大阪期米　仁川米豆取引所　西日後場　後場下押す　後場の手振